

東北の樹木誌

●編集／青森営林局
秋田営林局

●発行／舘日本林業技術協会

2 発刊にあたって

地球規模での環境保全が重要な関心事になっている今日、安全で緑豊かな住みよい環境の維持・保全に森林は大きな役割を果たし、人類が生存していくうえでなくてはならないものとなっております。また、森林に対する要請も、住宅建設資材や製紙原料等としての木材を生産・供給する機能の発揮から、水源かん養、国土の保全、保健休養の場の提供等森林が併せ持つ多様な公益的機能の発揮へと変化してきています。

このように森林に対する人々の関心がますます高まるにつれ、森林構成の主役である“樹木”についても、より多くの知識を得たいと

望んでいる人が多いことを森林倶楽部等の開催を通じて強く感じている昨今であり、私ども森林の育成や管理に携わる者にとってもこれらの関心に応えるために“樹木”の種類、分布等を詳しく知ることが重要になっています。

東北地方にはおおよそ500種に及ぶ樹木が生育していますが、それを一冊の本として取りまとめたものは見あたらず、このため、専門家ばかりでなく初心者からも、一冊の本としての集大成が待望されていました。幸いにも、青森営林局と秋田営林局には長年に渡って収集した資料があり、実地に培われた高度な知識を持つ技術者もおられます。これらの貴重な情報や知識を社会に提供することも国有林の大切な仕事の一つと考えます。

折しも平成9年は、保安林制度が森林法によって明治30年に法制化されてから100周年の節目にあたる年であり、これを記念して「東北の樹木誌」が取りまとめられ、刊行の運びとなったことはまことに喜ばしい限りであります。

本書は、諸先輩の指導を得つつ職員が業務のなかで蓄積した知識・情報をもとに、東北5県に分布する樹種をほぼ網羅し、その分布地域・特色等を簡潔に記述したものです。専門家から見れば不十分な点もあるかと思いますが、本書をベースに将来より充実したものに発展させていただければ幸いこれに過ぎるものではありません。

本書を発刊するにあたって、元青森営林局技術開発主任官工藤悦郎氏、青森営林局千葉

多兵衛技術開発主任官ならびに秋田営林局千葉 謹森林施業調整官の労に心から敬意を表すとともに感謝申し上げる次第です。

平成9年3月

青森営林局長 工藤裕士

秋田営林局長 郡 完治

編集にあたって

森林を相手に仕事をする人や森林に興味を持つ人にとって、森林を構成する植物を見分けて正確な植物名を知ることとは大切なことであり、楽しみでもあります。

未知の植物を正確に分類するには実際の植物を図鑑類や専門書で同定（鑑定）することになりますが、その場合、当該地域に生育している植物の種類を事前に知っておくことは大きな手助けになります。この手助けの一つとなるのが植物目録（植物誌）であります。かつては国有林でも作成され、多くの人々に利用されてきました。

- ④ 本誌の編集方針は、このような国有林の業務のなかで蓄積されてきた資料などに、各地の植物誌などによる最新の知見を加えて東北地方に生育する樹種を紹介することと、一般の方にも利用し森に親しんでいただくため、それぞれの樹種の特徴等を紹介することに主眼をおいています。

本誌は、樹種の分布特性、気候等を勘案して地域区分し、その地域ごとに自生する樹種を表示する方式を取り入れています。この地域区分は実用上妥当なものと考えています。

取り上げた樹種は、自生種のほか林業上の植栽樹種、一般に見られる庭園樹・街路樹などの高木も対象にしています。種以下の分類群についても太平洋・日本海側両要素を考慮しながら可能なかぎり変種、品種の記載をしています。

内容の記載は次によっています。

1. 種名は標準的なものとしています。
2. 雌雄については同株○、異株△、雑株▲として表示しています。
3. 学名は、日本植物誌（大井）、日本植生便覧、日本の野生植物（木本）、実用樹木便覧、青森県野生植物目録等を参考にしました。
4. 分布は、各県を右図のように区域分けして、便宜上例えば、青森県は津軽、下北、上北とし、生育ありは○、固有種★、北限◎、南限●として表示しています。
5. 生育場所は垂直的に平地、山地、亜高山、高山としこの組み合わせによって表示しています。
6. 記事欄は、樹木の分布域（外来種は原産地を表示）、樹木の特性、種名の由来および関連した記事、別名などを主に記載し、固有種・北限・南限についてはその場所など参考になるとと思われる事項を記載しています。

平成9年3月

秋田営林局 千葉 謹
元青森営林局 工藤 悦郎
青森営林局 千葉多兵衛

地域区分略図



凡例

県界線 ————
分布界 ······
分布域名 □



ハイヌガヤ



ハインズ



スエコザサ



コナラ



ヒメコウソ



ツクバネ



ミヤマハンノキ



ツノハシバミ



ミズナラ



ホオノキ



ウワミズザクラ



エビガライチゴ



ゴヨウイチゴ



マルバシモツケ



ツルシキミ



ヒロハツリバナ



サワダツ



ツリバナ



シラキ



アカミノイヌツゲ



イワウメツル



ヒトツバカエデ



チドリノキ



オガラバナ



メグスリノキ



トチノキ



ミヤマハハソ



カラスシキミ



ミズキ



ハクサンシャクナゲ

10



ナンブクロカンバ



サルナシ



ナニワス



イワナシ



シラタマノキ



ハナヒリノキ

11



ウラジロヨウラク



クロウスゴ



ウスノキ



ナツハゼ



サワフタギ



アラゲアオダモ



クサギ



キンギンボク



タニウツギ



ガマズミ



ウゴツクバネウツギ



オオカメノキ

東北の樹木誌・目次

いちよう科	22
イチョウ	22
いちい科	22
イチイ	22
キャラボク	22
カヤ	22
チャボガヤ	22
いぬがや科	22
イヌガヤ	22
ハイイヌガヤ	22
⑭ まつ科	24
モミ	24
オオシラビソ	24
シラベ	24
アカトドマツ	24
アオトドマツ	24
ヒマラヤスギ	24
カラマツ	24
ドイツトウヒ	24
アカエゾマツ	24
エゾマツ	26
トウヒ	26
コメツガ	26

ハイマツ	26
チョウセンゴヨウ	26
ヒメコマツ	26
キタゴヨウ	26
クロマツ	26
アカマツ	28
すぎ科	28
スギ	28
ウラスギ	28
メタセコイヤ	28
ヌマスギ	28
コウヤマキ	28
ひのき科	28
ヒノキ	28
サワラ	30
アスナロ	30
ヒノキアスナロ	30
クロベ	30
ニオイヒバ	30
コノテガシワ	30
ハインズ	30
ミヤマネズ	30
ネズ	30
リシリビャクシン	30
ビャクシン	32

ハマハイビャクシン	32
ミヤマビャクシン	32
たけ科	32
アズマネザサ	32
マダケ	32
モウソウチク	32
ヤダケ	32
クマイザサ	32
ミヤマザサ	32
クマザサ	32
チマキザサ	34
ミヤコザサ	34
チシマザサ	34
スズタケ	34
アズマザサ	34
スエコザサ	34
トヨオカザサ	34
オクヤマザサ	34
フゲシザサ	34
クテガワザサ	34
オオバザサ	36
ヤヒコザサ	36
ゆり科	36
サルトリイバラ	36
ヤマカシウ	36

マルバサンキライ	36
やなぎ科	36
タチヤナギ	36
アカメヤナギ	36
ジャヤナギ	36
ヤマネコヤナギ	36
キツネヤナギ	36
ミヤマヤナギ	38
ケミヤマヤナギ	38
エゾノカワヤナギ	38
カワヤナギ	38
イヌコリヤナギ	38
ネコヤナギ	38
シライヤナギ	38
シロヤナギ	38
オノエヤナギ	38
エゾノキヌヤナギ	38
シダレヤナギ	40
ドロノキ	40
ヤマナラシ	40
ギンドロ	40
オオバヤナギ	40
やまもも科	40
ヤチヤナギ	40
くるみ科	42

オニグルミ	42
サワグルミ	42
カシグルミ	42
かばのき科	42
シラカンバ	42
ダケカンバ	42
エゾノダケカンバ	42
オノオレカンバ	42
ミズメ	42
オオミネバリ	42
ネコシデ	44
ウダイカンバ	44
チチブミネバリ	44
ハンノキ	44
ヤハズハンノキ	44
ケヤマハンノキ	44
ヤマハンノキ	44
タニガワハンノキ	44
ミヤマカワラハンノキ	44
ミヤマハンノキ	46
サルクラハンノキ	46
ヤシャブシ	46
ヒメヤシャブシ	46
オオバヤシャブシ	46
クマシデ	46

アカシデ	46
イヌシデ	46
サワシバ	46
ハシバミ	48
ツノハシバミ	48
アサダ	48
ぶな科	48
ブナ	48
イヌブナ	48
クリ	48
スダジイ	48
アカガシ	48
アラカシ	50
シラカシ	50
ウラジログシ	50
クヌギ	50
コナラ	50
ナラガシワ	50
カシワ	50
ミズナラ	50
ミヤマナラ	52
アベマキ	52
にれ科	52
ハルニレ	52
オヒョウ	52

アキニレ	52
ケヤキ	52
エノキ	52
エゾエノキ	52
くわ科	54
ヤマグワ	54
ヒメコウゾ	54
イチジク	54
いらくさ科	54
コアカソ	54
びやくだん科	54
ツクバネ	54
やどりぎ科	54
ホザキヤドリギ	54
ヤドリギ	54
ふさざくら科	54
フサザクラ	54
かつら科	54
カツラ	54
ヒロハカツラ	56
あけび科	56
アケビ	56
ミツバアケビ	56
ゴヨウアケビ	56
ムベ	56

めぎ科	56
メギ	56
ヒロハヘビノボラス	56
もくれん科	56
コブシ	56
キタコブシ	58
ホオノキ	58
タムシバ	58
しきみ科	58
シキミ	58
やまぐるま科	58
ヤマグルマ	58
まつぶさ科	58
チョウセンゴミシ	58
マツブサ	58
くすのき科	58
クロモジ	58
オオバクロモジ	60
ヤマコウバシ	60
アブラチャン	60
シロダモ	60
タブノキ	60
ゆきのした科	60
バイカウツギ	60
ウツギ	60

ツルアジサイ	60
ノリウツギ	62
タマアジサイ	62
エゾアジサイ	62
ヤマアジサイ	62
イワガラミ	62
コマガタケスグリ	62
エゾスグリ	62
ヤブサンザシ	62
ザリコミ	62
ヤシャビシャク	64
トガスグリ	64
とべら科	64
トベラ	64
まんさく科	64
マンサク	64
マルバマンサク	64
すずかけのき科	64
スズカケノキ	64
アメリカスズカケノキ	64
モミジバスズカケノキ	64
ばら科	64
エドヒガン	64
ミヤマザクラ	66
ソメイヨシノ	66

オオヤマザクラ	66
サトザクラ	66
カスミザクラ	66
ミネザクラ	66
チシマザクラ	66
チョウジザクラ	66
オクチョウジザクラ	68
イヌザクラ	68
エゾノウミズザクラ	68
ウミズザクラ	68
シウリザクラ	68
スモモ	68
ザイフリボク	68
マルバシャリンバイ	68
ズミ	68
エゾノコリンゴ	70
ヤマナシ	70
イワテヤマナシ	70
オオウラジロノキ	70
ワタゲカマツカ	70
クサボケ	70
ナナカマド	70
サビバナナカマド	70
タカネナナカマド	72
ミヤマナナカマド	72

ウラジロナナカマド	72
アズキナシ	72
ウラジロノキ	72
ハマナス	72
ノイバラ	72
オオタカネイバラ	72
カジイチゴ	72
ニガイチゴ	74
ミヤマニガイチゴ	74
サナギイチゴ	74
クマイチゴ	74
クサイチゴ	74
コバナフユイチゴ	74
ベニバナイチゴ	74
エビガライチゴ	74
ミヤマウラジロイチゴ	74
ナワシロイチゴ	74
クロイチゴ	76
ゴヨウイチゴ	76
モミジイチゴ	76
ヤマブキ	76
キンロバイ	76
チングルマ	76
ホザキナナカマド	76
コゴメウツギ	76

ハヤチネイワシモツケ	78
シモツケ	78
マルバイワシモツケ	78
マルバシモツケ	78
コデマリ	78
エゾノシロバナシモツケ	78
ホザキシモツケ	78
アイズシモツケ	78
エゾシモツケ	78
ユキヤナギ	78
まめ科	80
サイカチ	80
ネムノキ	80
フジキ	80
イヌエンジュ	80
イタチハギ	80
エニシダ	80
フジ	80
ニワフジ	80
キハギ	80
マルバハギ	82
ヤマハギ	82
ツクシハギ	82
ミヤギノハギ	82
ハリエンジュ	82

エンジュ	82
みかん科	82
コクサギ	82
サンショウ	82
カラスザンショウ	82
イヌザンショウ	84
キハダ	84
ミヤマシキミ	84
ツルシキミ	84
にがき科	84
ニガキ	84
ニワウルシ	84
ゆずりは科	84
ユズリハ	84
エゾユズリハ	84
とうだいぐさ科	84
シラキ	84
アカメガシワ	86
つげ科	86
ツゲ	86
がんこうらん科	86
ガンコウラン	86
どくうつぎ科	86
ドクウツギ	86
うるし科	86

ウルシ	86
ツタウルシ	86
ヤマウルシ	86
ヌルデ	86
もちのき科	88
アオハダ	88
イヌツゲ	88
ハイイヌツゲ	88
モチノキ	88
ヒメモチ	88
アカミノイヌツゲ	88
ソヨゴ	88
ツルツゲ	88
オオツルツゲ	88
ウメモドキ	90
オクノフウリンウメモドキ	90
にしきぎ科	90
ツルウメモドキ	90
オニツルウメモドキ	90
イワウメズル	90
オオツルウメモドキ	90
クロヅル	90
マサキ	90
ヒロハツリバナ	90
クロツリバナ	90

サワダツ	92
ツルマサキ	92
ツリバナ	92
オオツリバナ	92
マユミ	92
オオバマユミ	92
カントウマユミ	92
ニシキギ	92
コマユミ	92
アオハダニシキギ	94
みつばうつぎ科	94
ミツバウツギ	94
かえで科	94
ヒトツバカエデ	94
チドリノキ	94
ウリカエデ	94
カラコギカエデ	94
ウリハダカエデ	94
クロビイタヤ	94
カジカエデ	94
ミネカエデ	94
ナンゴクミネカエデ	96
コミネカエデ	96
テツカエデ	96
オガラバナ	96

イタヤカエデ	96
オニイタヤ	96
エゾイタヤ	96
ウラジロイタヤ	96
エンコウカエデ	98
ベニイタヤ	98
イロハモミジ	98
ヤマモミジ	98
オオモミジ	98
コハウチワカエデ	98
オオイタヤメイゲツ	98
ハウチワカエデ	98
メグスリノキ	100
ミツデカエデ	100
むくろじ科	100
モクゲンジ	100
とちのき科	100
トチノキ	100
あわぶき科	100
アワブキ	100
ミヤマハハソ	100
くろうめもどき科	100
クロウメモドキ	100
クロカンバ	100
ナンブクロカンバ	100

イソノキ	102
クロツバラ	102
クマヤナギ	102
ホナガクマヤナギ	102
ヨコグラノキ	102
ケンボナシ	102
ぶどう科	102
ヤマブドウ	102
エビツル	102
サンカクヅル	102
ノブドウ	102
ツタ	104
しなのき科	104
シナノキ	104
オオバボダイジュ	104
またたび科	104
サルナシ	104
マタタビ	104
ミヤママタタビ	104
つばき科	104
ヤブツバキ	104
ユキツバキ	104
ヒサカキ	104
ナツツバキ	106
いいぎり科	106

イイギリ	106
きぶし科	106
キブシ	106
じんちょうげ科	106
オニシバリ	106
ナニワズ	106
カラスシキミ	106
ぐみ科	106
ナツグミ	106
トウグミ	106
アキグミ	106
マルバグミ	108
ナワシログミ	108
うりのき科	108
ウリノキ	108
うこぎ科	108
オニウコギ	108
ヤマウコギ	108
コシアブラ	108
タラノキ	108
タカノツメ	108
ヤツデ	108
ハリギリ	110
ハリブキ	110
キヅタ	110

みずき科	110
ミズキ	110
クマノミズキ	110
ヤマボウシ	110
ハナイカダ	110
アオキ	110
ヒメアオキ	112
いわうめ科	112
イワウメ	112
りょうぶ科	112
リョウブ	112
つつじ科	112
アズマシャクナゲ	112
ハクサンシャクナゲ	112
キバナシャクナゲ	112
ヤマツツジ	112
コメツツジ	114
トウゴクミツバツツジ	114
ゴヨウツツジ	114
レンゲツツジ	114
ムラサキヤシオツツジ	114
オオバツツジ	114
ユキグニミツバツツジ	114
バイカツツジ	114
オオコメツツジ	116

ヒメシャクナゲ	116
カラフトシャクナゲ	116
エゾツツジ	116
ヤチツツジ	116
イワヒゲ	116
イワナシ	116
アカモノ	116
シラタマノキ	116
ハリガネカズラ	118
ドウダンツツジ	118
ミネズオウ	118
ネジキ	118
アセビ	118
アクシバ	118
ホツツジ	118
ミヤマホツツジ	118
チシマツガザクラ	120
ツガザクラ	120
ナガバツガザクラ	120
アオノツガザクラ	120
エゾノツガザクラ	120
コメバツガザクラ	120
イソツツジ	120
ジムカデ	120
ハナヒリノキ	122

アブラツツジ	122
サラサドウダン	122
ウラジロヨウラク	122
ゴヨウザンヨウラク	122
コヨウラクツツジ	122
ヒメウスノキ	122
ツルコケモモ	122
マルバウスゴ	124
オオバスノキ	124
イワツツジ	124
コケモモ	124
ウラシマツツジ	124
クロマメノキ	124
クロウスゴ	124
ウスノキ	124
ナツハゼ	124
やぶこうじ科	124
ヤブコウジ	124
かきのき科	124
マメガキ	124
はいのき科	126
サワフタギ	126
えごのき科	126
エゴノキ	126
ハクウンボク	126

アサガラ	126
オオバアサガラ	126
もくせい科	126
ミヤマアオダモ	126
トネリコ	126
デワノトネリコ	126
ヤチダモ	128
アラゲアオダモ	128
マルバアオダモ	128
ヤマトアオダモ	128
イボタノキ	128
オオバイボタ	128
ミヤマイボタ	128
ハシドイ	130
ふじうつぎ科	130
フジウツギ	130
きょうちくとう科	130
テイカカズラ	130
くまつづら科	130
ムラサキシキブ	130
コムラサキ	130
ヤブムラサキ	130
クサギ	130
ハマゴウ	130
しそ科	132

イブキジャコウソウ	132
なす科	132
クコ	132
ごまのはぐさ科	132
キリ	132
タイワンギリ	132
のうぜんかずら科	132
キササゲ	132
ハナキササゲ	132
ノウゼンカズラ	132
すいかずら科	132
ハコネウツギ	132
タニウツギ	132
ウコンウツギ	134
キバナウツギ	134
ニシキウツギ	134
ツクバネウツギ	134
ウゴツクバネウツギ	134
スイカズラ	134
ウグイスカグラ	134
クロミノウグイスカグラ	134
マルバヨノミ	136
キンギンボク	136
チチブヒョウタンボク	136
アラゲヒョウタンボク	136

ナンブヒョウタンボク	136
ニッコウヒョウタンボク	136
ミヤマウグイスカグラ	136
エゾヒョウタンボク	136
イボタヒョウタンボク	136
キタカミヒョウタンボク	138
ハナヒョウタンボク	138
ヤブヒョウタンボク	138
ニワトコ	138
エゾニワトコ	138
ガマズミ	138
ミヤマガマズミ	138
オトコヨウゾメ	138
ヤブデマリ	138
ケナシヤブデマリ	140
マルバゴマギ	140
オオカメノキ	140
カンボク	140
リンネソウ	140

樹木名索引	142
参考文献	158

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
いちょう科 Ginkgoaceae	イチョウ	△	Ginkgo biloba Linn.						植
いちい科 Taxaceae	イチイ	△	Taxus cuspidata Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	
	キャラボク	△	Taxus cuspidata Sieb. et Zucc. var. nana Rehd.	○		○	○	○	
	カヤ	△	Torreya nucifera (Linn.) Sieb. et Zucc.				◎	○	○
	チャボガヤ	△	Torreya nucifera (Linn.) Sieb. et Zucc. var. radicans Nakai						
いぬがや科 Cephalotaxaceae	イヌガヤ	△	Cephalotaxus harringtonia (Rehd.) K. Koch						◎
	ハイイヌガヤ	△	Cephalotaxus harringtonia (Rehd.) K. Koch var. nana (Nakai) Rehd.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
栽							外来種	落葉高木。中国原産といわれているが自生地不明。社寺の境内、街路樹、公園に植えられ巨木が多い。種子は銀杏として食用。別名ギンナン。久慈市長泉寺のイチョウは国の天然記念物。
○				○		○	亜高山	常緑高木。北海道・本州中部以北・四国・九州に分布。和名は古来この材で高官の杓(シャク)をつくったことから高官の階級の一位の位を意味する。北海道には仮種皮が黄熟するキノミオンコが希産する。別名オンコ・アララギ。八戸市の木。
○			○	○	○	○	亜高山	常緑低木。本州、主に日本海側に分布。イチイの変種で、側枝の葉は2列に並ばず螺旋状に互生する。庭木に植えられる。別名ヒロハイチイ。
○	○	○					山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限北上市国見山。材は基盤として最高級である。種子は食用および採油用にされた。各地で庭園樹として植栽されている。宮城県小原地区には国指定の天然記念物コツブガヤ・ヒドリマキガヤが報告されている。
			○	○	○	○	山地	常緑低木。本州に分布。カヤの変種。幹が直立せず斜上する。
	○	○					山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限宮古市黒森山(植栽説もある。この場合釜石市)。実は苦くて食べられない。別名ヘボガヤ、ヘダマ。
○			○	○	○	○	山地	常緑低木。北海道・本州(主に日本海側)に分布。イヌガヤの変種。主幹下部は地をはう。実(偽果)は甘い。別名エゾイヌガヤ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
まつ科 Pinaceae	モ ミ	○	<i>Abies firma</i> Sieb. et Zucc.					○	◎
	オオシラビソ	○	<i>Abies mariesii</i> Masters	◎		○	○	○	
	シ ラ ベ	○	<i>Abies veitchii</i> Lindl.						
	アカトドマツ	○	<i>Abies sachalinensis</i> (Fr. Schm.) Masters						植
	アオトドマツ	○	<i>Abies sachalinensis</i> (Fr. Schm.) Masters var. <i>mayriana</i> Miyabe et Kudo						植
	ヒマラヤスギ	▲	<i>Cedrus deodara</i> (Roxb.) Loud.						植
	カラマツ	○	<i>Larix kaempferi</i> (Lamb.) Carr.						
	ドイツトウヒ	○	<i>Picea abies</i> Karst.						植
	アカエゾマツ	○	<i>Picea glehnii</i> (Fr. Schm.) Masters					●	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
○	○	○					山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。太平洋側北限宮古市黒森山(植栽説もある。その場合は釜石市)。各地に植栽され一部野生化しているものもある。秋田・山形県産はすべて植栽起源。
○				○	○	○	亜高山	常緑高木。本州中部以北に分布。北限八甲田山(前岳)。蔵王、八幡平、八甲田の樹氷は有名。別名アオモリトドマツ。青森市の木。岩手県早池峰山にはホソミノアオモリトドマツが報告されている。
						◎	亜高山	常緑高木。本州(吾妻山以南～大台ヶ原)に分布。北限吾妻山。別名シラビソ。
栽								常緑高木。北海道北東部に多い。エゾマツとともに北海道の木。別名トドマツ。
栽								常緑高木。北海道西南部に多い。トドマツの変種。樹皮が灰青色を帯びる。
栽							外来種	常緑高木。ヒマラヤ原産。樹形が美しくアロウカリアアロウカナ、コウヤマキとともに世界の三大庭園樹の一つ。別名ヒマラヤシーダー。
◎							亜高山	落葉高木。蔵王以南関東・中部の海拔1,000m以上の亜高山に分布。北限蔵王馬ノ神岳。現在の生育本数は12本。富士山に多いのでフジマツの名がある。東北のものは北海道を含めてすべて植栽木である。別名フジマツ・ラクヨウショウ。主要な造林樹種。
栽							外来種	ヨーロッパ原産。常緑高木。別名オウシュウトウヒ。
							亜高山	常緑高木。主に北海道に分布。南限早池峰山北斜面の石合沢および三陸町大窪山。青森県の七里長浜、十和田市で土埋木が発見されている。別名シンコマツ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
まつ科 Pinaceae	エゾマツ	○	<i>Picea Jezoensis</i> (Sieb. et Zucc.) Carr.					●	
	トウヒ	○	<i>Picea jezoensis</i> (Sieb. et Zucc.) Carr. var. <i>hondoensis</i> (Mayr) Rehd.						植
	コメツガ	○	<i>Tsuga diversifolia</i> (Maxim.) Masters	◎			○	○	○
	ハイマツ	○	<i>Pinus pumila</i> (Pallas) Regel	○			○	○	○
	チョウセンゴヨウ	○	<i>Pinus koraiensis</i> Sieb. et Zucc.						植
	ヒメコマツ	○	<i>Pinus parviflora</i> Sieb. et Zucc.						
	キタゴヨウ	○	<i>Pinus parviflora</i> Sieb. et Zucc. var. <i>pentaphylla</i> (Mayr) Henry	○	○	○	○	○	○
	クロマツ	○	<i>Pinus thunbergii</i> Parlat.	○	◎	○			○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮 城	秋 田	山 形						
内 沿	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部			
陸 岸								
							亜高山	常緑高木。主に北海道に分布。南限早池峰山北斜面の石合沢。トドマツとともに北海道の木。別名クロエゾマツ
栽								常緑高木。本州中部に分布。別名トラノオモミ。植栽木はおおむねドイツトウヒである。
○			○	○	○	○	亜高山	常緑高木。本州・四国・九州の山地帯上部から亜高山に分布。北限八甲田山(前岳)。別名クロツガ。
○			○	○	○	○	高山帯	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。高山帯を指標する。種子には翼がない。
栽								常緑高木。本州・四国(愛媛県東赤石山)。種子は食用。別名チョウセンマツ。北海道の東大演習林でエゾリスが作ったチョウセンゴヨウ林の話は有名。
○							山地	常緑高木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。種子に種子の長さより短い翼がつく。別名ゴヨウマツ・マルミゴヨウ。
○		○	○	○	○	○	山地	常緑高木。北海道西南部・本州中部以北に分布。北方型のゴヨウマツ。樹皮が大きくはがれる。葉は長くて硬く裏面が白っぽい。母種との違いは、種子に種子より長い翼がつくこと。別名ナガミノゴヨウ。キタゴヨウとハイマツの雑種にハッコウダゴヨウがある。種子はごく短い翼があるかまれになし。八甲田山で牧野博士が命名。
	○				○		海岸沿い	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限を下北半島大間町としていたが、最近、東北の天然分布に疑問が持たれている。古くから各地に植栽されている。別名オマツ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
まつ科 Pinaceae	アカマツ	○	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc.	○	◎	○	○	○	○
すぎ科 Taxodiaceae	スギ	○	<i>Cryptomeria japonica</i> (Linn. fil.) D. Don						◎
	ウラスギ	○	<i>Cryptomeria japonica</i> (Linn. fil.) D. Don var. <i>radicans</i> Nakai	◎			○	○	
	メタセコイヤ	○	<i>Metasequoia glyptostroboides</i> Hu et Cheng						植
	ヌマスギ		<i>Taxodium distichum</i> (Rich.) Thunbert						植
	コウヤマキ	○	<i>Sciadopitys verticillata</i> (Thunb.) Sieb. et Zucc.						植
ひのき科 Cupressaceae	ヒノキ	○	<i>Chamaecyparis obtusa</i> (Sieb. et Zucc.) Sieb. et Zucc.						植

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋	田	山 形				
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限大間町(北海道説もある)。岩手県の本(ナンブアカマツ)。別名メマツ。アカマツとクロマツの雑種をアイノコマツといい、冬芽が銀白色で樹皮が赤いもの、この逆のものもあり不安定要素が多い。
	○						山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。太平洋側北限は山田町霞露岳。古くから林業的に各地に植栽されてきた。真の自生地は不明。
○			○	○	○	○	山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限鰺ヶ沢町矢倉山。日本海側のスギは太平洋側のスギに比べ葉の角度がせまく、先端が内曲する。伏状により無性繁殖を行う。秋田の天然スギ林は青森のヒバ林、木曾のヒノキ林とともに日本三大美林の一つとして名高い。別名アシュウスギ。
栽							外来種	落葉高木。中国原産。1945(昭20)年中国四川省・湖北省境で発見。生きた化石として有名。別名アケボノスギ。
栽							外来種	常緑高木。北米原産(メキシコ湾沿岸・ミシシッピー河下流沼沢地)。庭園樹。別名ラクウショウ。
栽								常緑高木。本州・四国・九州に分布。世界の三大庭園樹の一つ。高野の六木(ヒノキ・ツガ・モミ・アカマツ・スギ)。和名は高野山に多いことから。別名ホンマキ。
栽								常緑高木。本州・四国・九州に分布。木曾のヒノキ林は日本三大美林の一つ。サワラ・コウヤマキ・ネズコ・ヒバとともに木曾の五木の一つに数えられている。葉裏の白い気孔線がY字形に見える。古代この木を摩擦して火を起こしたので「火の木」と呼ばれる。主要造林樹種。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
ひのき科 Cupressaceae	サワラ	○	<i>Chamaecyparis pisifera</i> (Sieb. et Zucc.) Sieb. et Zucc.					◎	
	アスナロ	○	<i>Thujopsis dolabrata</i> (Linn. f.) Sieb. et Zucc.	◎					
	ヒノキアスナロ	○	<i>Thujopsis dolabrata</i> (Linn. f.) Sieb. et Zucc. var. <i>hondae</i> Makino	○	○	○	○	○	
	クロベ	○	<i>Thuja standishii</i> (Gord.) Carr.	◎			○	○	○
	ニオイヒバ		<i>Thuja occidentalis</i> Linn.						植
	コノテガシワ		<i>Thuja orientalis</i> Linn.						植
	ハイネズ	△	<i>Juniperus conferta</i> Parlat.	○	○	○			○
	ミヤマネズ	△	<i>Juniperus communis</i> Linn. var. <i>nipponica</i> (Maxim.) Wils.				○	○	
	リシリビャクシン	△	<i>Juniperus communis</i> Linn. var. <i>saxatilis</i> Pall.				●		
	ネズ	△	<i>Juniperus rigida</i> Sieb. et Zucc.	○	◎	○		○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田		山 形				
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○							山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限早池峰山麓岳神社・岳国有林。キタカミサワラの名を与えられているが植栽説もある。葉裏の白い気孔線がV、X字形に見える。材はヒノキに劣る。園芸品種が多い。
					○		山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限眺望山。古くから(林業では)変種ヒノキアスナロを含めてヒバと呼んでいる。
○			○	○	○	○	山地	常緑高木。北海道西南部・本州に分布。南限日光市湯ノ湖付近・能登半島。青森のヒバ林は日本三大美林の一つ。別名ヒバ。青森県の本。青森県眺望山にホソバアスナロ(コアスナロ)が生育している。
○			○	○	○	○	山地～亜高山	常緑高木。本州に分布。北限岩木山。別名ネズコ。用途は建築材、額縁。
栽							外来種	常緑高木。北米原産。和名は葉に芳香のあることからついた。生垣に使う。
栽							外来種	常緑低木。中国原産。和名は葉のつき方が子供の掌状であることから。
	○		○		○		海岸砂地	常緑低木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉は3葉輪生で枝幹はほふくする。
○			○	○	○	○	海岸・岩上・高山	常緑低木。北海道・本州北部に分布。
							高山帯の高層湿原	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。南限雪石～葛根田。葉は著しく弓状に曲がり、表面が深くくぼみ白色の気孔帯が0.5mm内外のもの。
	○	○	○		○	○	山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限東通村。葉が針状でとがる。和名は葉がとがりさわると痛いので、ネズミを防ぐということからついた。別名ネズミサシ、ムロ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分 布					
				青 森			岩 手		
				津 軽	下 北	上 北	奥 羽	北 上	三 陸
ひのき科 Cupressaceae	ビャクシン	△	<i>Juniperus chinensis</i> Linn.		○				◎
	ハマハイビャクシン	△	<i>Juniperus chinensis</i> Linn. var. <i>pacifica</i> (Nakai) Kusaka		○	○			○
	ミヤマビャクシン	△	<i>Juniperus chinensis</i> Linn. var. <i>sargentii</i> Henry	○	○	○	○	○	
たけ科 Bambusaceae	アズマネザサ	○	<i>Pleioblastus chino</i> (Franch. et Savat.) Makino			○		○	○
	マダケ	○	<i>Phyllostachys bambusoides</i> silb. et Zucc.						植
	モウソウチク	○	<i>Phyllostachys pubescens</i> Mazel						植
	ヤダケ	○	<i>Pseudosasa Japonica</i> (Sieb. et Zucc.) Makino						
	クマイザサ	○	<i>Sasa senanensis</i> (Fr. et Sav.) Rehd.	○	○	○	○	○	○
	ミヤマザサ	○	<i>Sasa septentrionalis</i> Makino				○	○	○
	クマザサ	○	<i>Sasa veitchii</i> (Carr.) Rehd.						植

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武隈	部	部	部	部		
	○						海岸	常緑低木。本州・四国・九州に分布。北限久慈市侍浜。別名イブキ、イブキビャクシン。
	○				○		海岸(岩上)	常緑低木。北海道・本州・四国・九州に分布。イブキの変種。日本海側では飛島にハイビャクシン(別名ソナレ)が産する。
○			○	○	○	○	海岸(崖)高山	常緑低木。北海道・本州・四国・九州に分布。イブキの変種。別名シンパク、ミヤマハイビャクシン。
○	○	○				○	平地	本州・四国・九州に分布。秋田県に自生するといわれているが詳細不明。かつて土壁を作る時の骨材、竹細工に用いられた。別名アズマシノ・シノ。
栽							外来種	中国原産。桿高18～20m。広く栽培されている。別名クロチク。
栽							外来種	中国原産。桿高24m。
	○	○			○		平地～山地	本州・四国・九州に分布。昔、矢をつくる目的で各地に栽培した。日本海側では山形県飛島・吹浦地方以外は栽培。
○		○	○	○	○	○	山地～亜高山	北海道・本州・四国・九州に分布。和名は葉が多いことからつけられた(九枚笹)。チマキザサに似るが葉の裏に軟毛が密生する。
○	○	○	○	○	○	○	山地～亜高山	北海道・本州北部(日本海側)に分布。桿高1.5～2m。
栽								本州中部以西・四国・九州に分布。京都の一部の山地に自生地がある。冬期緑が白くくま取られている。変種チュウゴクザサが各地に産する。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
たけ科 Bambusaceae	チマキザサ	○	<i>Sasa palmata</i> (Bean) Nakai	○					○
	ミヤコザサ	○	<i>Sasa nipponica</i> Makino et Shibata			○		○	○
	チシマザサ	○	<i>Sasa kurilensis</i> (Rupr.) Makino et Shibata	○	○	○	○	○	
	スズタケ	○	<i>Sasamorpho borealis</i> (Hack.) Nakai			○		○	○
	アズマザサ	○	<i>Sasaella ramosa</i> Makino						○
	スエコザサ	○	<i>Sasaella ramosa</i> (Makino) Makino var. <i>suwekoana</i> (Makino) S.Suzuki				○		○
	トヨオカザサ	○	<i>Pleioblastus humilis</i> (Mitf.) Nakai	○		○	○		○
	オクヤマザサ	○	<i>Sasa cernua</i> Makino	○	○	○	○	○	○
	フゲシザサ	○	<i>Sasa fugeshiensis</i> Koidz.				○		
	クテガワザサ	○	<i>Sasa heterotricha</i> Koidz.				○		

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○		○	○	○	○	○	山地～亜高山	北海道・本州・四国・九州に分布。葉が幅広く両面に毛がないので餅(粽)を包むのに使われる。和名もこれによる。桿高1.5～2m, 基部でまばらに枝を分枝する。多雪地帯の笹。
		○					山地	北海道・本州・四国・九州に分布。主として太平洋側の寡雪地帯(積雪深50cm未満)に生える。節が球状にふくらむのが特徴。和名は京都の比叡山で発見されたことによる。桿高50～80cm。日本海側にも産するが其の自生か詳細不明。
○			○	○	○	○	山地～亜高山	北海道・本州・四国・九州に分布。日本海側(奥羽山系の東側を含む)のブナ林の下層として生える。桿高1.5～3m, 根元で湾曲するので根曲竹と呼ぶ。桿の上方で密に分枝する。別名ネマガリダケ。タケノコは美味。
○	○	○				○	山地	本州・四国・九州に分布。太平洋側のブナ林の下層として生える。竹細工の高級品。桿高1.5～2m。上方で分枝する。別名スズ・ミスズ。
						○	平地～山地	本州の高山を除く全域に分布。
○							平地～山地	東北地方に分布。アズマササに似るが葉の縁が裏面に巻く。牧野博士が仙台市で新種とし、苦楽をともした亡き妻の名前をつけた。
○	○		○	○	○	○	平地	北海道西南部・本州中部以北に分布。桿高1～2m。別名アオネザサ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	北海道・本州に分布。桿高2mまたはそれ以上。
○			○	○	○	○	山地	本州(日本海側)に分布。桿高1.5～2m。
○			○	○	○	○	山地	本州中部以北に分布。桿高1～2m。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分 布					
				青 森			岩 手		
				津 軽	下 北	上 北	奥 羽	北 上	三 陸
たけ科 Bambusaceae	オオバザサ	○	<i>Sasa megalophylla</i> Makino et Uchida	○		○	○	○	○
	ヤヒコザサ	○	<i>Sasa yahikoensis</i> Makino		○		○	○	○
ゆり科 Liliaceae	サルトリイバラ	△	<i>Smilax china</i> Linn.	○	○	○	○	○	○
	ヤマカシュウ	△	<i>Smilax sieboldii</i> Miq.			○	○	○	○
	マルバサンキライ	△	<i>Smilax vaginata</i> Decne. var. <i>stans</i> (Maxim.) T. Koyama	◎		○	○	○	○
やなぎ科 Salicaceae	タチヤナギ	△	<i>Salix subfragilis</i> Anders.	○	○	○	○	○	○
	アカメヤナギ	△	<i>Salix chaenomeloides</i> Kimura				◎		
	ジャヤナギ	△	<i>Salix eriocarpa</i> Franch. et Savat.						
	ヤマネコヤナギ	△	<i>Salix bakko</i> Kimura	○	○	○	○	○	○
	キツネヤナギ	△	<i>Salix vulpina</i> Anders.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○	○		○	○	○	○	山地	北海道・本州・四国に分布。桿高1.5～2m。葉が大型で葉鞘に毛が著しい。
			○	○	○		山地	北海道・本州中部以北に分布。桿高1～2m。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。刺がある。根は薬用。別名ガンタチイバラ。変種オオサルトリイバラが岩手県釜石市鶴住居(北限)に産する。
○	○	○		○	○	○	山地	落葉藤本。本州・四国・九州に分布。別名サイカチイバラ。棘のないものは品種トゲナシヤマカシュウ。
		○		○		○	平地～山地	落葉藤本。本州・四国・九州に分布。北限三沢市根井付近。日本海側は深浦。
	○	○	○	○	○	○	湿地、河岸	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。樹皮は灰褐色で縦に割れず薄片となつてはがれる。葉長5～15cm、幅1.3～2.5cm。
○					○	○	河岸	落葉高木。本州・四国・九州に分布。和名は若芽が赤味を帯びることによる。葉長5～15cm、幅2～6cm。別名マルバヤナギ。平成2年、岩手県藤沢町で発見され北限となる。
					○	○	湿地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。別名オオシロヤナギ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉高木。北海道西南部・本州に分布。成葉は革質、表面深緑色(葉脈はくぼむ)。裏面粉白色、縮毛を密生する。主に治山用に植栽。別名バッコヤナギ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州北部に分布。表面濃緑色でしわがあり、裏面は粉白色または黄緑色で下出葉、成葉、苞などに鉄さび色の毛があるのが特徴。別名イワヤナギ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
やなぎ科 Salicaceae	ミヤマヤナギ	△	Salix reinii Franch. et Savat.	○	○	○	○	○	○
	ケミヤマヤナギ	△	Salix reinii Franch. et Savat. var. eriocarpa Kimura					◎	
	エゾノカワヤナギ	△	Salix miyabeana Seemen	○					
	カワヤナギ	△	Salix gilgiana Seemen		○	○	○	○	○
	イヌコリヤナギ	△	Salix integra Thunb.	○	○	○	○	○	○
	ネコヤナギ	△	Salix gracilistyla Miq.	○	○	○	○	○	○
	シライヤナギ	△	Salix shiraii Seemen						
	シロヤナギ	△	Salix jessoensis Seemen	○	○	○	○	○	○
	オノエヤナギ	△	Salix sachalinensis Fr. Schm.	○	○	○	○	○	○
	エゾノキヌヤナギ	△	Salix pet-susu Kimura	○	○	○		○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
○			○	○	○	○	亜高山～高山	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。別名ミネヤナギ。
○							山地	落葉低木。本州中部以北に分布。北限愛染山。別名ケミネヤナギ。
							河岸砂地	落葉高木。葉長7～16cm，幅0.7～2.0cm
○		○	○	○	○	○	河岸や湿地	落葉高木。北海道西南部・本州・四国に分布。別名ナガバカワヤナギ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。葉がやや対生。別名オオバコリヤナギ。柳行李の材料にするヤナギ(朝鮮半島原産)に似ているが利用価値なし。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名カワヤナギ・エノコロヤナギ。切り花などに使用される。雄花の花穂が蕾のうち黒色のものをクロヤナギ(突然変異)という。
○					○	○	山地(岩上)	落葉低木。本州北部に分布。表面は鮮緑色で光沢があり裏面は粉白色。別名チチバヤナギ。
○	○	○	○	○	○	○	河畔	落葉高木。北海道・本州北部に分布。表面濃緑色，裏面粉白色。別名エゾシロヤナギ。
○	○	○	○	○	○	○	河岸	落葉高木。北海道・本州・四国に分布。若葉は先端部を除き裏側に巻き表面暗緑色，裏面白淡緑色で托葉は明瞭。別名カラフトヤナギ・ナガバヤナギ。
			○	○	○	○	水辺 (最上川河岸)	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。葉の表面は普通無毛，裏面は主脈に平行に伏した白色直毛が密生。別名ギンヤナギ・ウラジロヤナギ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
やなぎ科 Salicaceae	シダレヤナギ	△	Salix babylonica Linn.	軽	北	北	羽	上	陸
	ドロノキ	△	Populus maximowiczii A. Henry	○		○	○	○	○
	ヤマナラシ	△	Populus sieboldii Miquel	○	○	○	○	○	○
	ギンドロ	△	Populus alba Linn.						
やまもも科 Myricaceae	オオバヤナギ	△	Toisusu urbaniana (Seem.) Kimura	○			○	○	○
	ヤチヤナギ	△	Myrica gale Linn. var. tomentosa C. DC.	○	○	○			

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
栽								落葉高木。中国原産。別名イトヤナギ。観賞用に各地に栽培。
								ヤナギ属には次の雑種等がある。ヤマネコヤナギとキツネヤナギの雑種をセ ンダイヤナギ。オノエヤナギとキツネヤナギの雑種をハコダテヤナギ。カワ ヤナギとネコヤナギの雑種をヌシロヤナギと呼ぶ。イヌコリヤナギとオノエ ヤナギの雑種をイケノヤナギ。イヌコリヤナギとキツネヤナギの雑種をツガ ルヤナギ。イヌコリヤナギとキツネヤナギの雑種をヒラオヤナギという。ネ コヤナギとヤマネコヤナギの雑種をフリソデヤナギ。
○			○	○	○	○	河岸・山地	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。葉は長卵形で沢縁や湿地に生える、 別名ドロヤナギ・テロ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国に分布。葉は三角形で山の中腹あたりのやや 乾地を好む。和名は葉柄が扁平でわずかの風でも動き、葉が鳴るため。また 別名のハコヤナギは箱材にするため。
栽							外来種	落葉高木。ヨーロッパ・西アジア原産。葉の裏が銀白色。街路樹、防風林に 植栽。別名ウラジロハコヤナギ。
○			○	○	○	○	川岸・山地	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。別名アカヤナギ。変種トカチヤナ ギは子房がまったく無毛か上端だけにわずかに有毛で分ける。
							湿地	落葉低木。北海道・本州中北部に分布。葉は粉白色。和名は谷地に生え、ヤ ナギに似るため。別名エゾヤマモモ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
くるみ科 Juglandaceae	オニグルミ	○	<i>Juglans mandshurica</i> Maxim. subsp. <i>sieboldiana</i> (Maxim.) Kitamura	○	○	○	○	○	○
	サワグルミ	○	<i>Pterocarya rhoifolia</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○
	カシグルミ	○	<i>Juglans regia</i> Linn. var. <i>orientis</i> (Dode) Kitamura	植					
かばのき科 Betulaceae	シラカンバ	○	<i>Betula platyphylla</i> Sukatchev var. <i>japonica</i> (Miq.) Hara	○	○	○	○	○	○
	ダケカンバ	○	<i>Betula ermanii</i> Cham.	○	○	○	○	○	
	エゾノダケカンバ	○	<i>Betula ermanii</i> Cham. var. <i>ermanii</i> (Cham.)				○		
	オノオレカンバ	○	<i>Betula schmidtii</i> Regel			◎	○	○	○
	ミズメ	○	<i>Betula grossa</i> Sieb. et Zucc.	○			○	○	○
	オオミネバリ	○	<i>Betula grossa</i> Sieb. et Zucc. var. <i>ulmifolia</i> (Sieb. et Zucc.) Makino					○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮 城		秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。単にクルミといえば本種を指し、昔から種子は食用。材は狂いが少ない。別名オグルミ。果実が平滑なものを変種ヒメグルミと呼ぶ。
○		○	○	○	○	○	山地の沢沿	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名カワグルミ。材は白く軽く軟らかでマッチの軸木や下駄に使われる。
栽							外来種	落葉高木。中国原産。果実(核)は薄く砕きやすい。食用に植栽する。別名テウチグルミ。
				○			山地	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。高原を代表する樹木で樹皮の白さが売りもの。果穂は下垂し側脈は5～8対。別名シラカバ。市街地など低地に植栽すると病害、虫害が著しい。
○			○	○	○	○	山地上部～垂高山	落葉高木。北海道・本州・四国に分布。樹皮が灰色で果穂は上向き。側脈は7～12対。別名ソウシ(草紙)カンバは剥がした樹皮に字を書いたことによる。
○							山地	落葉高木。北海道・本州中部以北・四国に分布。別名オクエゾノダケカンバ。
○		○		○		○	山地の岩石地	落葉高木。本州中部以北(主に太平洋側)に分布。北限奥入瀬・十和田湖畔。和名は材が堅く斧も折れるの意味。別名ミネバリ。
○		○		○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。和名は樹皮を傷つけると水のような樹液が出ることによる。この液はサロメチールの香気がある。別名アズサ・ヨグソミネバリ。
○							山地	落葉高木。本州中部以北に分布。別名アズサカンバ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
かばのき科 Betulaceae	ネコシデ	○	<i>Betula corylifolia</i> Regel et Maxim.				◎	○	
	ウダイカンバ	○	<i>Betula maximowicziana</i> Regel	○	○	○	○	○	○
	チチブミネバリ	○	<i>Betula chichibuensis</i> Hara					○	○
	ハンノキ	○	<i>Alnus japonica</i> (Thunb.) Steud.	○	○	○	○	○	○
	ヤハズハンノキ	○	<i>Alnus matsumurae</i> Callier						
	ケヤマハンノキ	○	<i>Alnus hirsuta</i> Turcz.		○	○	○	○	○
	ヤマハンノキ	○	<i>Alnus hirsuta</i> Turcz. Var. <i>sibirica</i> (Fisch.) C. K. Schn.	○	○	○	○	○	○
	タニガワハンノキ	○	<i>Alnus inokumai</i> Murai et Kusaka			○	○	○	
	ミヤマカワラハンノキ	○	<i>Alnus fauriei</i> Léveillé				◎		

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○			○	○	○	○	亜高山	落葉高木。本州中部以北に分布。北限岩手山。葉裏が粉白色。別名ウラジロカンバ。全体にサロメチール様の香気がある。
○			○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。樹皮に横長の皮目がある。葉はカンパ類中最大で、幼時表面にビロード状の毛がある。果穂は細長く3〜4個が集まって垂れる。別名サイハダカンバ・マカバ。
							石灰岩地	落葉高木。本州中部以北に分布。側脈は14〜18対。
○	○	○	○	○	○	○	山地、低地の湿地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉は長楕円形で雄花は2〜3月葉の出る前に紐状に下垂して咲く。別名ハリノキ。用途はパルプ材等。
					○		亜高山	落葉高木。本州中部以北(日本海側)に分布。山形県の月山が北限かと思われる。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉の表面は初めビロード状の毛が密生、のち無毛。裏面は黄褐色でビロード状の毛が密生する。ケヤマハンノキとエゾハンノキの雑種をヒロハケハンノキという。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉の表面が無毛で裏面が著しく粉(青)白色。別名マルバハンノキ。ヤマハンノキとハンノキの雑種をヒロハハンノキという(南限鳴子町)。
○				○			山地	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。葉が小さく裏面は白っぽい。側脈が5〜8対。別名コバノヤマハンノキ・コバハン。
				○	○	○	山地	落葉高木。本州中部以北(日本海側)に分布。北限和賀郡。別名オバルハンノキ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分 布					
				青 森			岩 手		
				津 軽	下 北	上 北	奥 羽	北 上	三 陸
かばのき科 Betulaceae	ミヤマハンノキ	○	<i>Alnus maximowiczii</i> Callier	○	○	○	○	○	
	サルクラハンノキ	○	<i>Alnus hakkodensis</i> Hayashi			○			
	ヤシャブシ	○	<i>Alnus firma</i> Sieb. et Zucc.						○
	ヒメヤシャブシ	○	<i>Alnus pendula</i> Matsum.	○	○	○	○		
	オオバヤシャブシ		<i>Alnus sieboldiana</i> Matsum.						植
	クマシデ	○	<i>Carpinus japonica</i> Blume			◎		○	○
	アカシデ	○	<i>Carpinus laxiflora</i> (sieb. et Zucc.) Blume	○	○	○	○	○	○
	イヌシデ	○	<i>Carpinus tschonoskii</i> Maxim.					○	◎
	サワシバ	○	<i>Carpinus cordata</i> Blume	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城			秋 田		山 形			
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
○			○	○	○	○	亜高山～高山	落葉低木～高木。北海道・本州中部以北に分布。若枝や芽、葉の裏面などが粘る。側脈10～12対。ミヤマハンノキとヒメヤシャブシの雑種をイワキハンノキという。
							山地	落葉高木。南八甲田に分布。猿倉温泉付近にて採集され昭和27年新種として発表された。
		○				○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。別名ミネバリ。和名は球果の形状を夜叉にたとえ、タンニンが多いので付子(五倍子)といった。昔、肥料木として各地に植栽した。
○	○	○	○	○	○	○	山地の崩壊地	落葉低木。北海道・本州・四国に分布。側脈16～26対。別名ハゲシバリ。治山用、肥料木として植栽された。
栽								落葉高木。本州(太平洋側)に分布。治山用、肥料木として植栽された。
○		○				○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限小川原湖周辺。側脈20～24対。和名は樹形がたくましいので熊に因んだもの。別名オオソネ・イシソネ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は下垂する果穂の様子を四手に見立て、新芽が赤いことによる。側脈9～15対。材は椎茸ほだ木、ろくろ用材。盆栽用として人気がある。別名ソロ。
○	○	○				○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限宮古市重茂・磯鶏。白毛が多い。別名シロシデ。
○	○	○	○	○	○	○	山地の谷沿	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。側脈15～20対。別名サワシデ。葉や果穂が大型のものを変種オオサワシバという。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分						
				青 森			岩 手			
				津	下	上	奥	北	三	
かばのき科 Betulaceae	ハシバミ	○	<i>Corylus heterophylla</i> Fisch. var. <i>thunbergii</i> Blume	○	○	○	○	○	○	
	ツノハシバミ	○	<i>Corylus sieboldiana</i> Blume	○	○	○	○	○	○	
	アサダ	○	<i>Ostrya japonica</i> Sarg.	○	○	○	○	○	○	
ふな科 Fagaceae	ブナ	○	<i>Fagus crenata</i> Blume	○	○	○	○	○	○	
	イヌブナ	○	<i>Fagus japonica</i> Maxim.				○	◎	○	
	クリ	○	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○	
	スダジイ	○	<i>Castanopsis cuspidata</i> (Thunb.) Schottky var. <i>sieboldii</i> (Makino) Nakai							植
	アカガシ	○	<i>Quercus acuta</i> Thunb.							

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田	山 形	西 部	東 部	東 部		
内 陸	沿 岸							
○	○	○	○			○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名オオハシバミ。実は食べられる。
○	○	○	○	○	○	○	山地～亜高山	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名ナガハシバミ。果実は食用。日本海側に品種エゾノツノハシバミ(別名トックリハシバミーツノハシバミに似て果実の総包が短く約1cmのもの)、オオツノハシバミ(別名オオバツノハシバミ一葉が大きく長さ7～15cm, 幅4～11cm)等が産する。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉の裏面にヒロード状の腺毛が密生する。材は過去にソロバンの珠に使用した。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。北部の多雪地帯のブナは葉が大形なのでオオバブナとも呼ぶ。太平洋沿岸部にはコハブナも産する。側脈7～11対。温帯林の代表樹木。別名シロブナ。種子(堅果)はソバグリともいわれ食用。
○	○	○					山地	落葉高木。本州(太平洋側)・四国・九州に分布。北限一戸町。樹皮は黒褐色で葉が薄く長い絹毛がある。側脈10～14対。別名クロブナ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。別名シバグリ。枝が垂れ下がる変種シダレグリがある。
栽								常緑高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。観賞用や防風垣に植栽されている。
	○	○					低山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。別名オオガシ・オオバガシ。和名は材が赤みを帯びていることによる。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分 布					
				青 森			岩 手		
				津 軽	下 北	上 北	奥 羽	北 上	三 陸
ふな科 Fagaceae	アラカシ	○	Quercus glauca Thunb.						
	シラカシ	○	Quercus myrsinaefolia Blume						◎
	ウラジロガシ	○	Quercus salicina Blume						
	クヌギ	○	Quercus acutissima Carruth.			◎		○	○
	コナラ	○	Quercus serrata Thunb.	○	○	○	○	○	○
	ナラガシワ	○	Quercus aliena Blume	○	○	○	○	○	
	カシワ	○	Quercus dentata Thunb.	○	○	○	○	○	○
	ミズナラ	○	Quercus mongolica Fisch. var. grosseserrata (Blume) Rehd. et Wils. (Q. crispula Blume)	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

宮 内 城 沿 阿 武 隈 岸 陸	秋 西 田 部 東 部	山 西 形 東 部 部	生 育 場 所	記 事
○	○		低山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。材は淡い紅褐色であるがアカガシのそれと比べて淡い。
○	○	○	低山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限陸前高田市。和名は材が白色であることから。別名クロガシは樹皮が黒色であることから。
◎	○		低山地	常緑高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限松島町。葉はシラカシに似ているが裏面に絹毛を散生し、ロウ質物を分泌して白色を呈する。
○	○	○	低山地	落葉高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限三戸郡付近。黒炭の原木として最高級。秋田県にも産するが天然分布(自生)は疑問視されている。
○	○	○	平地～山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。アカマツ地帯に多い。低山地の二次林の代表樹種。実は代表的なドングリ。別名ホウソウ。コナラとミズナラの雑種をミズコナラという。また、コナラに比較し葉が長大なものをテリハコナラという。
	○	○	平地～山地	落葉高木。本州中部以北に分布。葉はミズナラより大きい。別名カシワナラ。
○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。前年の葉が翌年の新葉まで残っている。葉で餅を包んだのが「かしわ餅」。別名モチカシワ。カシワとコナラの雑種をコナラモドキ(別名コガシワ)。カシワとモンゴリナラの雑種をカシワモドキ。カシワとミズナラの雑種をホソバカシワという。
○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。ブナ地帯に多い。葉はほとんど無柄で葉脚部は耳状である。別名オオナラ。山形県寒河江市、西川町に葉が深く切れ込むハゴロモミズナラが産し、西川町では天然記念物に指定している。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
ぶな科 Fagaceae	ミヤマナラ	○	<i>Quercus monglica</i> Fisch. var. <i>undulatifolia</i> (Lévél.) Kitam. et T. Horik. (<i>Q. crispula</i> Blume var. <i>horikawae</i> H. Ohba)	○	○	○	○	○	
	アベマキ	○	<i>Quercus variabilis</i> Blume						植
にれ科 Ulmaceae	ハルニレ	○	<i>Ulmus davidiana</i> Planch. var. <i>japonica</i> (Rehd.) Nakai	○	○	○	○	○	○
	オヒョウ	○	<i>Ulmus laciniata</i> (Trautv.) Mayr	○	○	○	○	○	○
	アキニレ	○	<i>Ulmus parvifolia</i> Jacq.						
	ケヤキ	○	<i>Zelkova serrata</i> (Thumb.) Makino	○	○	○	○	○	○
	エノキ	○	<i>Celtis sinensis</i> Pers. var. <i>japonica</i> (Planch.) Nakai	◎				○	○
	エゾエノキ	○	<i>Celtis jessoensis</i> Koidz.	○		○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
○			○	○	○	○	亜高山	落葉低木。本州中部以北(日本海側)に分布。ミズナラの変種。別名ハイナラ。
栽								落葉高木。本州中部・四国・九州に分布。過去には樹皮はコルクの代用。山形県東置賜郡高島町の巨木(竹森のアベマキ・日向のアベマキ)は山形県指定の天然記念物。
○			○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名ニレ・アカダモ。この仲間はスズカケノキ・セイヨウトチノキ・リンデンバームとともに世界の四大街路樹。樹皮から楡麵をつくり、根も糊料となる。枝にコルク質が発達する品種をコブニレと呼ぶ。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉の先が3裂する。別名ヤジナ・ネジリジナ・アツシ。湿性指標植物。樹皮は織物や縄などに利用される。アイヌはアツシの材料とした。
						○	山地	落葉高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。山形県水晶山に産するといわれる。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。別名ツキ。建築材、家具材、街路樹に使用する。葉の表裏と葉柄に密毛のあるものをメゲヤキという。
○	○	○	○			○	低山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限深浦町。葉縁の上半分のみに鋸歯があり、果実は橙色に熟する。エゾエノキの葉とともに国蝶のオオムラサキが食べる。
		○	○	○	○	○	低山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉縁の基部を除いて全部に鋸歯があり、果実は黒熟する。別名オクエノキ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
くわ科 Moraceae	ヤマグワ	△	Morus bombycis Koidz.	○	○	○	○	○	○
	ヒメコウゾ	○	Broussonetia kazinoki Sieb.						
	イチジク	△	Ficus carica Linn.						
いらくさ科 Urticaceae	コアカソ	○	Boehmeria spicata (Thunb.) Thunb.	○		○	○	○	○
	ツクバネ	△	Buckleya lanceolata (Sieb. et Zucc.) Miq.	○				○	○
やどりぎ科 Viscaceae	ホザキヤドリギ	○	Hyphear tanakae (Franch. et Savat.) Hosokawa	○		○		○	○
	ヤドリギ	△	Viscum album Linn. var. coloratum (Komar.) Ohwi	○	○	○	○	○	○
ふさぎくら科 Eupteleaceae	フサザクラ	○	Euptelea polyandra Sieb. et Zucc.						
かつら科 Cercidiphyllaceae	カツラ	△	Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武隈	部	部	部	部		
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。養蚕用に畑にも植えられる。実は黒熟して食べられ美味。材は硬く狂いが少なく、美しい光沢があり床柱等に使用される。別名クワ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。別名カゾ・コウゾ。樹皮は和紙の原料。青森県には植栽木が見られる。
栽								落葉高木。西南アジア原産。園芸品種が多い。果樹として栽培。果実は美味。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。草本のアカソに似ている。別名キアカソ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。本州中部以北に分布。別名ハゴノキ。和名は実を羽根つきの羽根に見立てたもの。他の木の根に半寄生する。
○				○		○	樹上	常緑低木。本州中部以北に分布。ミズナラ・ハンノキ・クリ等に寄生する。
○	○	○	○	○	○	○	樹上	常緑低木。北海道・本州・四国・九州に分布。果実が淡黄色に熟する。橙黄色に熟すものをアカミノヤドリギと呼ぶ。
		○	○				山地の沢沿	落葉高木。本州・四国・九州に分布。葉の先端が尾状にとがる。湿性指標植物。別名タニグワ
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名オカゾラ。和名は香出に基づくものといわれている。建築材、器具材。岩手県に枝が垂れるシダレカツラがあり盛岡市の木。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分						
				青 森			岩 手			
				津	下	上	奥	北	三	
				軽	北	北	羽	上	陸	
かつら科 Cercidiphy- llaceae	ヒロハカツラ	△	Cercidiphyllum magnificum (Nakai) Nakai	○	○	○		○		
あけび科 Lardizaba- laceae	アケビ	○	Akebia quinata (Thunb.) Decaisne			◎	○	○	○	
	ミツバアケビ	○	Akebia trifoliata (Thunb.) koidz.	○	○	○	○	○	○	
	ゴヨウアケビ	○	Akebia pentaphylla Makino			◎	○	○	○	
	ムベ	○	Stauntonia hexaphylla (Thunb.) Decaisne							
めぎ科 Berberidaceae	メギ	○	Berberis thunbergii DC.	植						
	ヒロハヘビノボラズ	○	Berberis amurensis Rupr. var. japonica (Regel) Rehd.	○	○	○	○	○	○	
もくれん科 Magnoliaceae	コブシ	○	Magnolia praecocissima Koidz.							

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
							山地	落葉高木。本州中部以北に分布。葉が大きくほぼ円形で鋸歯は丸みを帯び種子に翼がある。別名ウチワカツラ・トワダカツラ。
○	○	○			○	○	平地～山地	落葉藤本。本州・四国・九州に分布。北限三戸町。葉は5枚の掌状複葉。和名は開け実の意味。果肉は美味。秋田県にも産するが栽培からの逸出説が有力。別名アケビカズラ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉藤本。本州・四国・九州に分布。葉は3枚の掌状複葉。果肉は美味。つるを細工材料とする。
	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉藤本。本州・四国・九州に分布。北限三戸町。アケビとミツバアケビの雑種。小葉は5枚でミツバアケビに似る。
					◎		低山	常緑藤本。本州・四国・九州・沖縄に分布。日本海の飛島に産する。別名トキワアケビ。果肉は甘く食用になる。
栽								落葉低木。本州・四国・九州に分布。和名は木部を煎じて洗眼薬としたことによる。別名コトリトマraz・ヨロイドウシは枝に縦の溝があり棘が鋭いことから。
○		○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。枝に棘がある。別名オオトリトマraz・オオヘビノボラズ。木部および根皮は健胃薬。山形県蔵王にマルバメギが産する。
	○	○					山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。和名は果実の形から幼児のにぎりこぶしを連想したもの。樹皮、蕾は薬用。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
もくれん科 Magnoliaceae	キタコブシ	○	Magnolia kobus DC. var. borealis Sarg. (M. Praecocissima Koidz. var. borealis (Sarg.) Koidz.)	○	○	○	○	○	○
	ホオノキ	○	Magnolia obovata Thuberg (M. hypoleuca Sieb. et Zucc.)	○	○	○	○	○	○
	タムシバ	○	Magnolia salicifolia (Sieb. et Zucc.) Maxim.	○	○	○	○	○	○
しきみ科 Illiciaceae	シキミ	○	Illicium anisatum Linn. (I. religiosum Sieb. et Zucc.)						
やまぐるま科 Trochodendraceae	ヤマグルマ	○	Trochodendron aralioides Sieb. et Zucc.						
まつぶさ科 Schisandraceae	チョウセンゴミシ	△	Schisandra chinensis (Turcz.) Baill.		○	○	○	○	○
	マツブサ	△	Schisandra repanda (Sieb. et Zucc.) Radlk.	○	○	○	○	○	○
くすのき科 Lauraceae	クロモジ	△	Lindera umbellata Thunb.						◎

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮 城			秋 田	山 形				
内 沿	阿 武	西 東	西 東	西 東	西 東	西 東		
陸 岸	隈 部	部 部	部 部	部 部	部 部	部 部		
			○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州中部以北(日本海側)に分布。葉は大きく花が桃色を帯びる。別名エゾコブシ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名ホオガシワ。葉は輪生状で大きく、物を包むのに用いた。花には甘い芳香がある。樹皮や果実は薬用になる。材は版画材。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。枝葉には芳香あり葉にはわずかな甘みがある。別名カムシバ・ニオイコブシ。
	◎	○					山地	常緑低木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限仙台市。和名は種子が有毒なため「悪しき実」から転じた。生枝を仏事に用いる。葉は抹香、線香の材料。別名ハナノキ・ハナシバ。
					◎		山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限飯豊山塊(小国町)。樹皮からトリモチを作るので別名トリモチノキ。
				○		○	山地	落葉藤本。北海道・本州北中部・四国に分布。和名は果実が赤熟し五味があるという意味。大きさは不揃いである。薬用になる。秋田・山形県には極めてまれに産する。山形県に変種イヌチョウセンゴミシが産する。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。果実は黒紫色に熟する。つるを傷つけると松やにの臭いがする。別名ウシブドウ。浴湯に用いる。
	○	○					山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。北限大窪山。樹皮や材に独特の芳香がある。材は細工物やつま楊子に用いる。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
くすのき科 Lauraceae	オオバクロモジ	△	<i>Lindera umbellata</i> Thunb. var. <i>membranacea</i> (Maxim.) Momiyama	○	○	○	○	○	○
	ヤマコウバシ	△	<i>Lindera glauca</i> (Sieb. et Zucc.) Blume						
	アブラチャン	△	<i>Parabenzoin praecox</i> (Sieb. et Zucc.) Nakai	○	○		○	○	○
	シロダモ	△	<i>Neolitsea sericea</i> (Blume) koidz.						
	タブノキ	△	<i>Machilus thunbergii</i> Sieb. et Zucc.	◎					○
ゆきのした科 Saxifragaceae	バイカウツギ	○	<i>Philadelphus satsumi</i> Sieb.	◎		○		○	○
	ウツギ	○	<i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○
	ツルアジサイ	○	<i>Hydrangea petiolaris</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道西南部・本州(日本海側)に分布。葉が大形。葉脈は鮮明で光沢はほとんどない。枝葉に芳香があり材は細工物やつま楊子に用いる。
○						◎	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。北限真室川町。山形県乃位産の標本が国立博物館に収蔵されている。冬期枝に葉を残す。
○		○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。葉裏脈上に毛のあるものをケアブラチャンと呼ぶ。
	◎	○			○		低地	常緑高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限気仙沼市大島(日本海側北限山形県遊佐町)。葉の裏が白い。液果は翌年の秋に赤熟する。別名シロタブ・タモガラ。
	○	○	○		○		沿岸地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限深浦町(太平洋側北限岩手県船越大島)。山形県の三崎のタブ林は日本海側最北の群落として県の天然記念物に指定。樹皮は抹香製造の結合材。別名イヌグス。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国、九州に分布。北限深浦町。別名サツマウツギ。変種ケバイカウツギは名久井岳が北限。早池峰にもある。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。幹が中空なため空木(ウツギ)と呼ぶ。別名ウノハナ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。装飾花は3～4枚で花弁状。葉縁の鋸歯は細く鈍頭。別名ツルデマリ・ゴトウヅル。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
ゆきのした科 Saxifragaceae	ノリウツギ	○	Hydrangea paniculata Sieb.	○	○	○	○	○	○
	タマアジサイ	○	Hydrangea involucrata Sieb.						
	エゾアジサイ	○	Hydrangea macrophylla (Thunb.) Ser. var. megacarpa Ohwi	○	○	○	○	○	○
	ヤマアジサイ		Hydrangea macrophylla (Thunb.) Ser. var. acuminata (Sieb. et Zucc.) Makino						
	イワガラミ	○	Schizophragma hydrangeoides Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○
	コマガタケスグリ	○	Ribes japonicum Maxim.	○	○	○	○	○	
	エゾスグリ	○	Ribes latifolium Jancz.					●	
	ヤブサンザシ	△	Ribes fasciculatum Sieb. et Zucc.			○		◎	○
	ザリコミ	△	Ribes maximowiczianum Komarov					◎	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		阿 武 隈	秋 田	山 形				
内 陸	沿 岸			西 部	東 部	西 部		
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は幹の内皮の粘液を和紙の糊に用いたことによる。別名サピタ・ノリノキ。北海道の「サピタのパイプ」は根から作る。
		◎					山地	落葉低木。本州中部以北に分布。北限丸森町。和名は蕾が球形であることによる。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州北部に分布。葉が大きく飾り花が青色であることが多い。別名ムツアジサイ。
		○					山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。別名サワアジサイ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。装飾花は1枚である。葉縁の鋸歯は荒く鋭頭で葉は瓜の匂いがし食べられる。
○				○		○	山地～亜高山	落葉低木。北海道・本州・四国に分布。山地帯の風穴に産する。和名は木曾駒ヶ岳ではじめて採取されたことによる。別名オオバスグリ。
						○	山地	落葉低木。北海道・本州北部に分布。南限遠野市。別名ヤマスグリ。
	○						平地	落葉低木。本州北部に分布。北限久慈市。葉は長方形または卵形で先は円味を帯び短枝を持つ。和名はバラ科のサンザシに似ていることによる。
○						○	山地	落葉低木。本州・四国に分布。北限姫神山。葉の頂裂片の先は3角状でとがる。長枝と短枝が不明瞭。和名は砂利地に生えるグミの意味。別名ザリグミ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
ゆきのした科 Saxifragaceae	ヤシャビシャク	△	<i>Ribes ambiguum</i> Maxim.	○	○	○	○	○	○
	トガスグリ	○	<i>Ribes sachalinense</i> (Fr. Schm.) Nakai	○				○	○
とべら科 Pittosporaceae	トベラ	△	<i>Pittosporum tobira</i> (Thunb.) Ait.						◎
まんさく科 Hamamelidaceae	マンサク	○	<i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc.						
	マルバマンサク	○	<i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc. var. <i>obtusata</i> Matsum.	○	○	○	○	○	
すずかけのき科 Platanaceae	スズカケノキ	○	<i>Platanus orientalis</i> Linn.						植
	アメリカスズカケノキ	○	<i>Platanus occidentalis</i> Linn.						植
	モミジバズカケノキ	○	<i>Platanus acerfolia</i> Ait.						植
ばら科 Rosaceae	エドヒガン		<i>Prunus pendula</i> Maxim. form. <i>ascendens</i> (Makino) Ohwi					○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城	秋 田	山 形						
内 沿	阿 武	西 東	西 東	西 東	西 東	西 東		
陸 岸	隈 部	部	部	部	部	部		
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。樹上に着生する。和名は果実の形を夜叉の使う杓に見立てたもの。
○							山地	落葉低木。北海道・本州・四国に分布。別名オオザリコミ。
	○						海岸岩地 (風衝地)	常緑高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限広田湾(青松島)。大晦日の夜、トベラの枝葉を扉に挿しておくこと来年の疫病を追い払えるという言い伝えがあり、和名もこれに因む。別名トビラノキ。
◎	○	○					山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限野尻。和名は枝一杯に黄色の花が咲くことから豊年満作、春早く咲くことからまず咲くの説がある。岩手県太平洋側にオオバマンサクがある。
○			○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道西南部・本州中部以北の日本海側に分布。葉の上半部が半円形になる。
栽							外来種	落葉高木。アジア原産。果球が3～5個。和名は集合果が連なり垂れ下がる様子を山伏の着る装束の飾りになぞらえたもの。世界の四大並木樹。別名プラタナス。
栽							外来種	落葉高木。北米原産。果球は果軸に1個下垂。街路樹に使われる。
栽							外来種	スズカケノキとアメリカスズカケノキの雑種。球果は通常2個で時に3～4個つく。植栽木の大半は本種である。
○	○	○				○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。各地に植栽されている。サクラの木の老木や巨木はこの種類が多い。別名ヒガンザクラ・ウバヒガン。シダレザクラは本種の園芸種。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分						
				青 森			岩 手			
				津	下	上	奥	北	三	
ばら科 Rosaceae	ミヤマザクラ	○	<i>Prunus maximowiczii</i> Rupr.	○	○	○	○	○	○	
	ソメイヨシノ	○	<i>Prunus yedoensis</i> Matsum.							植
	オオヤマザクラ	○	<i>Prunus sargentii</i> Rehd.	○	○	○	○	○	○	
	サトザクラ	○	<i>Prunus lannesiana</i> (Carr.) Wils. var. <i>lannesiana</i> (Wils.)							植
	カスミザクラ	○	<i>Prunus verecunda</i> (Koidz.) Koehne	○	○	○	○	○	○	
	ミネザクラ	○	<i>Prunus nipponica</i> Matsum.	○	○	○	○	○		
	チシマザクラ	○	<i>Prunus nipponica</i> Matsum. var. <i>kurilensis</i> (Miy.) Wils.		○		○	○		
	チョウジザクラ	○	<i>Prunus apetala</i> (Sieb. et Zucc.) Franch. et Savat.						◎	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○	○		○	○		○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。花は純白で花弁の先がへこんでいないのが特徴。別名シロザクラ。
栽								落葉高木。エドヒガンとオオシマザクラの雑種が定説である。植栽のサクラは本種が一般的である。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国に分布。東北の山でピンク色の花の場合は本種で、白っぽい花の場合はカスミザクラが一般的である。花柄がほとんどないのがヤマザクラとの区別点である。別名エゾヤマザクラ・ベニヤマザクラ。単に「サクラ」といえば吉野のヤマザクラ(別名ヨシノザクラ)とカスミザクラ(別名オクヤマザクラ)を指す。
栽								落葉高木。園芸品の包括名。各地に植栽されている。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉柄や花柄に開出毛がある。花柄が途中で分岐する。
○			○	○	○	○	重高山	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。別名オオマメザクラ・タカネザクラ。岩木山には変種のイワキタカネザクラがある。
○				○			山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。ミネザクラの変種。葉柄や花柄に開出した毛が多い。別名エトロフザクラ。岩手県七時雨山で八重咲き品が発見されヤエチシマと命名された。
	○	○					山地	落葉高木。本州・九州に分布。北限金ヶ崎町六原。葉、葉柄ともに褐色の軟毛が密生する。がく筒は大きい筒状で基部は少しふくらむ。別名メジロザクラ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
ばら科 Rosaceae	オクチョウシザクラ	○	<i>Prunus apetala</i> (Sieb. et Zucc.) Franch. et Savat. var. <i>pilosa</i> (koidz.) wils.					○	
	イヌザクラ	○	<i>Prunus buergeriana</i> Miq.			○	○	○	○
	エゾノウワミズザクラ	○	<i>Prunus padus</i> Linn.	●					
	ウワミズザクラ	○	<i>Prunus grayana</i> Maxim.	○	○	○	○	○	○
	シウリザクラ	○	<i>Prunus ssiori</i> Fr. Schm.	○	○	○	○	○	○
	スモモ	○	<i>Prunus salicina</i> Lindl.						植
	ザイフリボク	○	<i>Amelanchier asiatica</i> (Sieb. et Zucc.) Endl.					◎	
	マルバシャリンバイ	○	<i>Rhaphiolepis umbellata</i> (Tunb.) Makino var. <i>integerrima</i> (Hooch. et Arn.) Rehd.						
	ズミ	○	<i>Malus sieboldii</i> (Regel) Rehd.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布						生 育 場 所	記 事
宮 城	秋 田	山 形	西 部	東 部	西 部		
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部		
○	○		○	○	○	山地	落葉高木。本州中部以北(日本海側)に分布。チョウシザクラに似ているが全体に毛が少なく、葉柄が長く花も大きい。
○	○	○			○	平地～山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。花は2年枝に側生する。樹皮に悪臭がある。別名シロザクラ。
						平地～山地	落葉高木。北海道・本州北部に分布。南限五所川原市。ウワミズザクラに似るが蜜腺が葉柄の上端左右にある。
○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。枝上の小枝は落葉直後に脱落し、その後瘤状に節くれ立つ。葉の基部がくさび型にならない。別名コンゴウザクラ。
			○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。葉の基部がハート形にくぼむ。シウリはアイヌ語に由来するといわれる。別名ミヤマイヌザクラ。
							落葉高木。中国原産。植栽木が半野性化している。
	○				○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限一関市。別名シデザクラ。
	◎				○	海岸	常緑高木。本州北部に分布。北限松島(日本海側北限山形県温海町)。和名は葉が枝の上部に車状をなし花が梅を思わせることによる。別名ハマモッコク。山形県の天然記念物。
○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。3～5に中裂する葉があるのが特徴。和名は樹皮を黄色染料に用いたため「染み」が転化したもの。別名コリンゴ・ミツバカイドウ。長枝の葉がほとんど無分裂のものをオオズミと呼ぶ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
ばら科 Rosaceae	エゾノコリンゴ	○	<i>Malus baccata</i> Borkh. var. <i>mandshurica</i> (Maxim.) C. K. Schn.	○	○		○	○	○
	ヤマナシ	○	<i>Pyrus pyrifolia</i> (Burm. f.) Nakai	○		○	○	○	○
	イワテヤマナシ	○	<i>Pyrus ussuriensis</i> Maxim. var. <i>aromatica</i> (Nakai et Kikuchi) Rehd.				○	○	○
	オオウラジロノキ	○	<i>Malus tschonoskii</i> (Maxim.) C. K. Schn.				○	○	◎
	ワタゲカマツカ	○	<i>Pourthiaea villosa</i> (Thunb.) Decne.	○	○	○	○	○	○
	クサボケ	○	<i>Chaenomeles japonica</i> (Thunb.) Spach.		○				
	ナナカマド	○	<i>Sorbus commixta</i> Hedl.	○	○	○	○	○	○
	サビバナナカマド	○	<i>Sorbus commixta</i> Hedl. var. <i>rufo-ferruginea</i> C. K. Schn.				○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城			秋	田	山 形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
			○	○			平地～山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。葉は中裂しない(ズミとの相違点)。別名ヒロハオオズミ。
○	○	○			○		平地～山地	落葉高木。本州・四国・九州北部に分布。別名オオズミ・サナシ。
			○	○	○	○	山地	落葉高木。本州に分布。がく片の基部が宿存する。別名ミチノクナシ。変種アオナシが飛島に産する。
○	○	○		○	○	○	山地	落葉高木。本州・九州に分布。北限宮古市。別名ズミノキ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は材が丈夫で折れにくいので鎌の柄にしたことにより、別名ウシコロシは牛の鼻輪にも利用したのでこの名がある。毛の着生状態から変種カマツカ・ケナシカマツカに分類される。
				○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。和名はボケ(中国原産)に似て低木のため。別名シドミ・ジナシ。果実は民間薬。
○		○	○	○	○	○	山地～亜高山	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名はカマドに七回入れても燃え残るのとえのため。次の雑種がある。リクチュウナナカマド=デワノハゴロモナナカマド(ナナカマドとウラジロノキの雑種)。リクチュウナナカマドは牧野博士が宮古市重茂で馬車に積んだ刈草の中から見つけたというエピソードがある。他にカワシロナナカマド(ナナカマドとアズキナシの雑種)。ウラギンナナカマド(別名ツクシナナカマド)がある。
○					○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。葉の裏面、特に主脈に沿って褐色の長軟毛がある。他にコサビバナナカマドが岩手県五葉山に産する。また山形県にはツシマナナカマドが産する。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
ばら科 Rosaceae	タカネナナカマド	○	<i>Sorbus sambucifolia</i> (Cham. et Schltdl.) Roem.				○	○	
	ミヤマナナカマド	○	<i>Sorbus sambucifolia</i> (Cham. et Schltdl.) Roem. var. <i>pseudogracilis</i> Schn.		○	○		●	
	ウラジロナナカマド	○	<i>Sorbus matsumurana</i> (Makino) Koehne				○	○	
	アズキナシ	○	<i>Sorbus alnifolia</i> (Sieb. et Zucc.) C. Koch	○	○	○	○	○	○
	ウラジロノキ	○	<i>Sorbus japonica</i> (Decne.) Hedl.				◎	○	○
	ハマナス	○	<i>Rosa rugosa</i> Thunb.	○	○	○		○	○
	ノイバラ	○	<i>Rosa multiflora</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○
	オオタカネイバラ	○	<i>Rosa acicularis</i> Lindl.	○	○		○	○	
	カシイチゴ	○	<i>Rubus trifidus</i> Thunb.	植					

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○				○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道・本州北部に分布。葉の縁全体に重鋸歯があり裏面は白くない。別名オオミナナカマド。
							亜高山	落葉低木。北海道・本州北部に分布。タカネナナカマドの変種。南限五葉山。
○				○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道・本州中部以北。葉の裏面が粉白色を帯び小葉の上半分に鋸歯がある。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名ハカリノメは樹皮に白い斑点があり竿バカリの目盛りに見立てたもの。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限雫石町。葉の裏面に綿のような毛が著しい。
	○		○		○		海岸砂地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。別名ハマナシ。白花品をシロバナハマナスという。青森市の木。ハマナスとノイバラの雑種をコハマナスと呼ぶ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。ノイバラとハマナスの雑種をテリハノイバラと呼び花はノイバラより大きい。花数が少ない。(別名ハイイバラ)。
				○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道・本州中部以北(日本海側)に分布。タカネイバラの母種。小葉は小さく2～3対で、鋸歯がまばらで托葉はやや狭い。別名オオタカネバラ。変種タカネイバラ(別名タカネバラ・ミヤマハマナス)が岩手県門馬に産する。
栽								落葉低木。本州中部以南(太平洋側)・四国・九州に分布。果実は赤熟する。日本海沿岸部では植栽され野生化している。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
ばら科 Rosaceae	ニガイチゴ	○	<i>Rubus microphyllus</i> Linn. fil.				○	○	○
	ミヤマニガイチゴ	○	<i>Rubus microphyllus</i> Linn. fil. var. <i>subcrataegifolius</i> (Lév. et Van.) Ohwi					○	◎
	サナギイチゴ	○	<i>Rubus oldhamii</i> Miq. (<i>R. pungens</i> Camb. var. <i>oldhami</i> (Miq.) Mxim.)			◎	○	○	○
	クマイチゴ	○	<i>Rubus crataegifolius</i> Bunge	○	○	○	○	○	○
	クサイチゴ	○	<i>Rubus hirsutus</i> Thunb.			○		○	◎
	コバノフユイチゴ	○	<i>Rubus pectinellus</i> Maxim.	○	○	○	○	○	
	ベニバナイチゴ	○	<i>Rubus vernus</i> Focke	○		○	○		
	エビガライチゴ	○	<i>Rubus phoenicolasius</i> Maxim.	○	○	○	○	○	○
	ミヤマウラジロイチゴ	○	<i>Rubus yabei</i> Lév. et Van.					○	
	ナワシロイチゴ	○	<i>Rubus parvifolius</i> Linn.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋	田	山 形				
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。葉の裏はロウをひいたように白い。果実ははく筒に包まれ赤色。別名ゴガツイチゴ。
○						○	山地	落葉低木。本州に分布。北限山田町船越大島。ニガイチゴより葉が大きく、裂片の先はとがり花枝が伸びる。別名オオバナニガイチゴ。
				○	○	○	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。北限野辺地町。奥羽山脈沿いに変種ナンブサナギイチゴが産する。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。クマが食べるというので名づけられたが人間が食べても味が良い。別名タチイチゴ・エゾノクマイチゴ。
○	○	○		○	○	○	平地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。北限宮古市。果実は球形赤熟。
○			○	○	○	○	山地	常緑低木。本州・四国・九州に分布。常緑のためフユイチゴの名があり、フユイチゴよりさらに葉が丸いので。別名マルバフユイチゴ。
○			○	○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道西南部・本州中部以北に分布。和名は赤紫色の花に因む。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は全体が紫褐色の腺毛でおおわれ、つぼみや枝の色合いがゆでたエビやカニの色に似るから。別名ウラジロイチゴは葉の裏が白いので。
				○	○	○	亜高山	落葉低木。本州中・北部の高山に分布。枝や葉に腺毛が出ない。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州・沖縄に分布。和名は苗代の頃に赤く熟して食べられるためとしているが、東北では時期的に無理。別名サツキイチゴ。品種に葉の裏が青いアオナワシロイチゴがある。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
ばら科 Rosaceae	クロイチゴ	○	<i>Rubus mesogaeus</i> Focke		○	○	○	○	○
	ゴヨウイチゴ	○	<i>Rubus ikenoensis</i> Lév. et Van.	○			○	○	
	モミジイチゴ	○	<i>Rubus palmatus</i> Thunb. var. <i>coptophyllus</i> (A. Gray) O. Kuntze	○	◎	○	○	○	○
	ヤマブキ	○	<i>Kerria japonica</i> (Linn.) DC.	○	○	○	○	○	○
	キンロバイ	○	<i>Potentilla fruticosa</i> Linn. var. <i>rigida</i> (Wall.) Th. Wolf				○	○	
	チングルマ	○	<i>Geum pentapetalum</i> (Linn.) Makino	○		○	○	○	
	ホザキナナカマド	○	<i>Sorbaria sorbifolia</i> (Linn.) A. Br. var. <i>stellipila</i> Maxim.		○				
	コゴメウツギ	○	<i>Stephanandra incisa</i> (Thunb.) Zabel			○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮 城		阿 武 隈	秋 田	山 形	西 部	東 部		
内 陸	沿 岸							
○			○	○		○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。少数の細い棘がある。実は黒熟する。下北半島および奥羽山脈沿い、また秋田・山形県東部に変種シモキタイチゴが産する。
○			○	○	○	○	亜高山	落葉低木。本州中部以北に分布。枝やがくに細いとげが多く花卉が退化している。別名トゲゴヨウイチゴ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。北限東通村。別名キイチゴ(木苺・黄苺の意味)・アワイチゴ。湿性指標植物。
○	○	○	○	○	○	○	谷川沿い	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。有名な山吹の歌はヤエヤマブキのことで雄しべが花弁化し、雌しべも退化して生殖能力がないもの。白ヤマブキは本種の白花品(シロバナヤマブキ)ではなく花卉が4片の別種である。別名オモカゲグサ・カガミグサ。
○				○		○	高山の岩石地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。花が白色の品種をギンロバイ(ハクロバイ)という。別名キンロウバイ。
○			○	○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。花は白色で5弁平開。湿性お花畑の主要な構成種。別名イワグルマ。
							山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は小さい米粒のような白い花が咲くことによる。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分 布					
				青 森			岩 手		
				津 軽	下 北	上 北	奥 羽	北 上	三 陸
ばら科 Rosaceae	ハヤチネイワシモツケ	○	<i>Spiraea nipponica</i> Maxim. var. <i>hayachinensis</i> M. Kikuchi					★	
	シモツケ	○	<i>Spiraea japonica</i> Linn. fl.				○	○	○
	マルバイワシモツケ	○	<i>Spiraea nipponica</i> Maxim. form. <i>rotundifolia</i> Makino					○	○
	マルバシモツケ	○	<i>Spiraea betulifolia</i> Pall.	○	○	○	○	○	
	コデマリ	○	<i>Spiraea cantoniensis</i> Lour.						植
	エゾノシロバナシモツケ	○	<i>Spiraea miyabei</i> koidz.	○			○	○	○
	ホザキシモツケ	○	<i>Spiraea salicifolia</i> Linn.					○	
	アイズシモツケ	○	<i>Spiraea chamaedryfolia</i> Linn. var. <i>pilosa</i> (Nakai) Hara (<i>S. ussuriensis</i> A. Pojark.)				○	○	○
	エゾシモツケ	○	<i>Spiraea sericea</i> Turcz.		○				
	ユキヤナギ	○	<i>Spiraea thunbergii</i> Siebold						

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城	秋 田	山 形						
内 沿	阿 西	東 西	東 部	東 部	東 部	東 部		
陸 岸	武 隈	部	部	部	部	部		
							高山	落葉低木。早池峰山特産。
	○		○	○	○		亜高山	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名キシモツケ・ケナシシモツケ。山形にシロバナシモツケが産する。
○						○	亜高山～高山	落葉低木。本州中部以北に分布。母種イワシモツケに比べて小形。
○			○	○	○	○	亜高山～高山	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。葉の先がとがらず全体に鋸歯がある。
栽								落葉低木。中国原産。観賞用切り花に植栽する。
○			○	○			山地	落葉低木。北海道・本州北部に分布。シモツケに似るが葉の質がより薄く、重鋸歯が著しい。
							山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。岩手県玉山～外山のエゾハンノキ林下に自生。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。6月頃多数の白色小花を開く。
							岩礫地	落葉低木。北海道・本州北部に分布。
		○					山地	落葉低木。本州中部以北に分布。中国からの移植説もある。別名コゴメバナ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
まめ科 Legumiosae	サイカチ	○	Gleditsia japonica Miq.						植
	ネムノキ	○	Albizia julibrissin Durazz.	○				○	○
	フジキ	○	Cladrastis platycarpa (Maxim.) Makino						
	イヌエンジュ	○	Maackia amurensis Rupr. et Maxim. var. buergeri (Maxim.) C. K. Schn.	○	○	○	○	○	○
	イタチハギ	○	Amorpha fruticosa Linn.						植
	エニシダ	○	Cytisus scoparius (Linn.) Link						植
	フジ	○	Wisteria floribunda (Willd.) DC.	○	○	○	○	○	○
	ニワフジ	○	Indigofera decora Lindl.						
	キハギ	○	Lespedeza buergeri Miq.					○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
栽							河原	落葉高木。本州・四国・九州の水辺に生育。和名は漢方薬の早角子、古名の西海子から転じたもの。神社などに植栽された。石鹼の代用とした。別名カワラフジノキ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。和名は日が暮れはじめる頃から葉が垂れ下がり葉が合わさって閉じ、眠ったように見えることから。別名コウカ。
		○					山地	落葉高木。本州・四国に分布。別名ヤマエンジュ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州に分布。花は小さい蝶形で黄白色、総状につき7月から9月に開く。床柱に使用する。別名オオエンジュ。本種に似ているエンジュは中国原産で街路樹などに植栽されている。
栽								落葉低木。北米・メキシコ原産。治山用や肥料木として植栽。別名クロバナエンジュ。
栽								落葉低木。ヨーロッパ南部原産。治山用、山腹工に用いられる。別名センダイヤマハギ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉藤本。本州・四国・九州に分布。花は基部から先に咲き進む。つるは右巻。葉の裏に毛がある(ヤマフジは左巻で本州中部以南に分布、花房が長い)。別名ノダフジ。
	○						岩地	落葉藤本。本州中部以南・四国・九州に分布。観賞用に栽培されている。別名イワフジ。
○	○	○				○	岩壁	落葉低木。本州・四国・九州に分布。別名ノハギ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
まめ科 Legumiosae	マルバハギ	○	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i> Miq.						○
	ヤマハギ	○	<i>Lespedeza bicolor</i> Turcz.	○	○	○	○	○	○
	ツクシハギ	○	<i>Lespedeza homoloba</i> Nakai					○	○
	ミヤギノハギ	○	<i>Lespedeza thunbergii</i> (DC.) Nakai						植
	ハリエンジュ	○	<i>Robinia pseudo-acacia</i> Linn.						植
	エンジュ		<i>Sophora japonica</i> Linn.						植
みかん科 Rutaceae	コクサギ	△	<i>Orixa japonica</i> Thunb.	◎		○	○	○	○
	サンショウ	△	<i>Zanthoxylum piperitum</i> (Linn.) DC.	○	○	○	○	○	○
	カラスザンショウ	△	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> Sieb. et Zucc. (<i>Fagara ailanthoides</i> Sieb. et Zucc.)	○	◎				

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○		○			○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。別名ミヤマハギ。枝、花部の開出しているカワチハギが山形県に産する。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。別名ハギ・エゾヤマハギ。秋の七草の一つ。がくの先があまりとがらないものをエゾヤマハギと呼ぶ。
		○					平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。別名ニッコウシラハギ。
栽								落葉低木。東北地方に自生があるというが多くは植栽。センダイハギは花が黄色な草本で別種。
栽							外来種	落葉高木。北米原産。別名ニセアカシヤは、アカシヤは別にあり本物のアカシヤではない意味。花の天ぷらは美味。
栽							外来種	落葉高木。中国原産。花は小さい蝶形で淡黄白色。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。北限岩崎村。殺虫剤(ウジコロシ)。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。棘は対生。別名ハジカミ。若芽や種子を香辛料とする。棘がないか、ごく少ない品種をヤマアサクラザンショウといい、棘がなく果実が大きい品種をアサクラザンショウ(ブドウザンショウ)という。
○	○	○	○		○		山地	落葉高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限脇野沢村。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
みかん科 Rutaceae	イヌザンショウ	△	<i>Zanthoxylum schinifolium</i> Sieb. et Zucc.				○	○	○
	キハダ	△	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.	○	○	○	○	○	○
	ミヤマシキミ	△	<i>Skimmia japonica</i> Thunb.					◎	
	ツルシキミ	△	<i>Skimmia japonica</i> Thunb. var. <i>intermedia</i> Komatsu form. <i>repens</i> (Nakai) Hara	○	○	○	○	○	○
にがき科 Simaroubaceae	ニガキ	△	<i>Picrasma quassioides</i> (D. Don) Benn.	○	○	○	○	○	○
	ニワウルシ	△	<i>Ailanthus altissima</i> Swing.						植
ゆずりは科 Daphniphyllaceae	ユズリハ	△	<i>Daphniphyllum macropodum</i> Miq.						
	エゾユズリハ	△	<i>Daphniphyllum macropodum</i> Miq. var. <i>humile</i> (Maxim.) Rosenthal	○	○	○	○	○	
とうだいぐさ科 Euphorbiaceae	シラキ	○	<i>Sapium japonicum</i> (Sieb. et Zucc.) Pax et Hoffm.					◎	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。棘は互生。サンショウに似るが異臭があり香辛料には使われない。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は内皮が黄色なことによる。内皮を「黄ばく」といい、苦味健胃剤に用いる。樹皮の Cork 層が薄く、小葉が大きく葉と花序がほとんど無毛のものを変種ヒロハキハダ(別名カラフトキハダ)と呼ぶ。
	○						山地	落葉低木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限大東町。
○			○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州(日本海側)に分布。ミヤマシキミの変種で茎が地をはう。別名ハイミヤマシキミ。葉の表面の葉脈がへこんでいる品種をウチダシツルシキミという。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州・沖縄に分布。枝葉に苦味があり薬用とする。
栽								落葉高木。中国原産。葉をカイコの餌とするために輸入したという説がある。別名シンジュ。
	○						山地	常緑高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。若芽が伸びだしてから古い葉が落ちるので代を譲るということから縁起木として正月の飾りに用いられる。
○			○	○	○	○	山地	常緑低木。北海道・本州中部以北(日本海側)に分布。幹の下部が地面をはうような形になる。正月の飾りに用いられる。別名ヒナユズリハ。
○	○	○	○		○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限西磐井郡。樹皮は灰白色を帯び滑らかで枝や葉を傷つけると白い汁が出る。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雄 雌	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津 軽	下 北	上 北	奥 羽	北 上	三 陸
とうだいぐさ科 Euphorbiaceae	アカメガシワ	△	Mallotus japonicus (Thunb.) Muell.Arg.					◎	
つげ科 Buxaceae	ツゲ	○	Buxus microphylla Sieb. et zucc. var japonica (Muell. Arg.) Rhed. et Wils.						
がんこうらん科 Empetraceae	ガンコウラン	△	Empetrum nigrum Linn. var. japonicum K. Koch	○	○	○	○	○	
どくうつぎ科 Coriariaceae	ドクウツギ	○	Coriaria japonica A. Gray	○	○	○	○	○	○
うるし科 Anacardiaceae	ウルシ	△	Rhus verniciflua Stokes	植					
	ツタウルシ	△	Rhus ambigua Lavall'ee ex Dippel	○	○	○	○	○	○
	ヤマウルシ	△	Rhus trichocarpa Miq.	○	○	○	○	○	○
	ヌルデ	△	Rhus javanica Linn.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮 内	城 沿	秋 阿	田 武	山 西	形 東	部 部		
陸	岸	隈	部	部	部	部		
	○	○	○		○		平地～山地	落葉高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限花巻市。和名は新芽が赤いことによる。
◎					○		山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限小野田町(日本海側北限山形県平田町の国有林)。材は黄色で密。別名ホンツゲ。櫛材に使われる。山形県の国有林に小林川ツゲ植物群落保護林が設定されている。
○			○	○	○	○	高山の岩礫地	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。別名コケノミ。果実は球形で黒熟し食用になる。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。有毒植物。別名カワラウツギ・ナベワリ・イチロベエゴロシ。
栽								落葉高木。中国原産。各地に植栽され一部で野生化している。岩手県浄法寺はウルシの栽培で有名。別名ウルシノキ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。有毒植物。葉は紅葉して美しいが接触するとカブレるので注意。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。紅葉が美しい。ツタウルシほどではないがカブレるので注意。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉小高木。北海道・本州・四国・九州・沖縄に分布。葉柄の両側に翼がつく。幹を傷つけると白乳液が出てこれで物を塗るのでヌルデの名があるという。別名フシノキ(五倍子)。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
もちのき科 Aquifoliaceae	アオハダ	△	<i>Ilex macropoda</i> Miq.	○	○	○	○	○	○
	イヌツゲ	△	<i>Ilex crenata</i> Thunb.			◎		○	
	ハイイヌツゲ	△	<i>Ilex crenata</i> Thunb. var. <i>paludosa</i> (Nakai) Hara	○	○	○	○	○	
	モチノキ	△	<i>Ilex integra</i> Thunb.						
	ヒメモチ	△	<i>Ilex leucoclada</i> (Maxim.) Makino	○	○	○	○	○	
	アカミノイヌツゲ	△	<i>Ilex sugerokii</i> Maxim. var. <i>brevipedunculata</i> (Maxim.) S. Y. Hu	○	○	○	○	○	
	ソヨゴ	△	<i>Ilex pedunculosa</i> Miq.						
	ツルツゲ	△	<i>Ilex rugosa</i> Fr. Schm.	○	○	○	○	○	
	オオツルツゲ	△	<i>Ilex makinoi</i> Hara	○	○	○	○		

○：同株 △：異株 ▲：雑株

宮 城	阿 武 隈	秋 田	山 形	西 部	東 部	生 育 場 所	記 事
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	秋 田	西 部	東 部	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。樹皮は灰白色で薄く爪で簡単にはがれ、緑色の内皮が現れるので青膚の和名がある。材は白色、細工用材。別名マルバウメモドキ。
○	○	○	○	○	○	山地	常緑小高木。本州・四国・九州に分布。北限十和田湖畔。観賞用に多く植栽される。
○	○		○	○	○	山地	常緑低木。北海道・本州(日本海側)に分布。幹の下部は地上をほう。葉全体に鋸歯があり、果実は球形で黒熟する。イヌツゲの変種で別名ヤチイヌツゲ。
	◎			○		海岸に近い山地	常緑高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限牡鹿半島。樹皮から鳥モチを作ったのでこの名がある。日本海側では飛島に産する。
○			○	○	○	山地	常緑低木。北海道西南部・本州中部以北に分布。和名はモチノキに似て小さいため。
○			○	○	○	亜高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。類似するイヌツゲとの相違点は葉の上縁に鋸歯があること。果実は球形で赤熟する。別名ミヤマクロソゴ。
	◎					山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限仙台市。和名は硬い葉が風で音をたててそよぐことから。別名フクラシバ。
○			○	○	○	亜高山	常緑低木。本州・四国・九州に分布。葉の表面は脈がへこんでしわがある。
○			○	○	○	亜高山	常緑低木。本州・四国・九州に分布。ツルツゲとヒメモチの雑種。葉の表面のしわは浅い。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
もちのき科 Aquifoliaceae	ウメモドキ	△	<i>Ilex serrata</i> Thunb.				○	○	○
	オクノフウリンウメモドキ	○	<i>Ilex geniculata</i> Maxim. var. <i>glabra</i> Okuyama	○					
にしきぎ科 Celastraceae	ツルウメモドキ	△	<i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○
	オニツルウメモドキ	△	<i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb. var. <i>strigillosus</i> Makino	○	○	○	○	○	○
	イワウメズル	△	<i>Celastrus flagellaris</i> Rupr.						◎
	オオツルウメモドキ	△	<i>Celastrus stephanotifolius</i> Makino	○		○			○
	クロツル	○	<i>Tripterygium regelii</i> Sprague et Takeda				◎		
	マサキ	○	<i>Euonymus japonicus</i> Thunb.						○
	ヒロハツリバナ	○	<i>Euonymus macropterus</i> Rupr.	○		○	○	○	○
	クロツリバナ	○	<i>Euonymus tricuspidatus</i> Koidz.	○			○	○	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。和名は葉がウメに似ているためでモドキとは似ているが本物でない意味である。
					○	○	山地	落葉低木。北海道西南部・本州中部以北に分布。山形県銀山が基準標本地。別名オオバウメモドキ。
○	○	○			○	○	平地～山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州・沖縄に分布。5 花弁。別名ツルマユミ。方言ヤマガキは黄赤色(柿色)に因む。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉藤本。北海道・本州中部以北に分布。葉の裏面の脈上に小さな突起毛がある。別名イヌツルウメモドキ。
					○	○	山地	落葉藤本。本州・四国・九州に分布。北限山田町。秋田県に自生するといわれるが詳細不明。
	○						山地	落葉藤本。本州・四国・九州に分布。若枝や花序、葉の裏面や脈上にやや湾曲した短い剛毛がある。別名シタキツルウメモドキ。
○			○	○	○	○	亜高山	落葉藤本。本州中部以北(日本海側)・四国に分布。北限湯田の夏油湿原。茎は赤褐色で強靱。別名アカネカズラ・ギョウジャカズラ。
	○	○	○		○		山地	常緑低木。北海道西南部・本州・四国・九州・沖縄に分布。4 花弁、4 種子。生け垣として用いる。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。花は淡緑色。4 花弁、4 種子。
○		○			○	○	山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。5 花弁、3 種子。暗紫色の花をつける。別名ムラサキツリバナ。秋田県に自生するといわれるが詳細不明。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
にしきぎ科 Celastraceae	サワダツ	○	<i>Euonymus melananthus</i> Franch. et Savat.	○	○	○	○	○	○
	ツルマサキ	○	<i>Euonymus fortunei</i> (Turcz.) Hand. - Mazz. var. <i>radicans</i> (Sieb.) Rehd.	○	○	○	○	○	○
	ツリバナ	○	<i>Euonymus oxyphyllus</i> Miq.	○	○	○	○	○	○
	オオツリバナ	○	<i>Euonymus planipes</i> (Koehne) Koehne	○	○	○	○	○	○
	マユミ	△	<i>Euonymus sieboldianus</i> Blume	○	○	○	○	○	○
	オオバマユミ	△	<i>Euonymus sieboldianus</i> Blume var. <i>yedoensis</i> (Koehn) Hara	○	○			○	○
	カントウマユミ	△	<i>Euonymus sieboldianus</i> Blume var. <i>sanguineus</i> Nakai	○	○	○	○	○	
	ニシキギ	○	<i>Euonymus alatus</i> (Thunb.) Sieb.	○	○	○	○	○	○
	コマユミ	○	<i>Euonymus alatus</i> Sieb. form. <i>ciliato-detatus</i> (Franch. et Savat.) Hiyama	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布						生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形		
内	沿	阿	西	東	西		
陸	岸	武	部	部	部		
○		○	○	○	○	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。5 花弁, 5 種子。別名アオジクマユミ。
○	○	○	○	○	○	山地	常緑藤本。北海道・本州・四国・九州・沖縄に分布。気根で樹や岩にはいのぼる。母種はリュウキュウツルマサキ。別名マサキカズラ。
○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。5 花弁, 5 種子。別名ツリバナマユミ。秋田産の多くは葉, 果実が大きい変種エゾツリバナに属する。
○			○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。5 花弁, 5 種子。ヒロハツリバナとツリバナの雑種。別名エゾツリバナ。
○	○	○			○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名はこの材で弓を作ったことによる。4 花弁, 4 種子。
	○	○			○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。母種に比べ葉と果実が大形。別名ヒロハマユミ。
			○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉の裏面脈上に突起状の短毛を密生する。別名ユモトマユミ・エゾマユミ。
○	○	○		○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。枝に著しく発達した翼がある。花弁4～3で種子2。紅葉が美しい。葉の裏面脈上に短毛が出るものをケニシキギという。
○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。ニシキギの変種で枝にコルク質の翼が発達しないもの。4 花弁, 2 種子。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
にしきぎ科 Celastraceae	アオハダニシキギ	○	<i>Euonymus alatus</i> (Thunb.) Sieb. var. <i>arakianus</i> (Koidz.) Hara					○	
みつばうつぎ科 Staphyleaceae	ミツバウツギ	○	<i>Staphylea bumalda</i> DC.	○	○	○	○	○	○
かえで科 Aceraceae	ヒトツバカエデ	○	<i>Acer distylum</i> Sieb. et Zucc.				○	○	○
	チドリノキ	△	<i>Acer carpinifolium</i> Sieb. et Zucc.						◎
	ウリカエデ	△	<i>Acer crataegifolium</i> Sieb. et Zucc.						
	カラコギカエデ	○	<i>Acer ginnala</i> Maxim. (var. <i>aidzuense</i> (Franch.) Ogata)	○	○	○	○	○	○
	ウリハダカエデ	△	<i>Acer rufinerve</i> Sieb. et Zucc.	○		◎	○	○	○
	クロヒイタヤ	○	<i>Acer miyabei</i> Maxim.				○	○	
	カジカエデ	△	<i>Acer diabolicum</i> Blume ex Koch						
	ミネカエデ	△	<i>Acer tschonoskii</i> Maxim.	○	○	○	○	○	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
							亜高山	落葉低木。岩手県早池峰(薬師岳)に産する。別名ソガイコマユミ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は3葉で花がウツギに似ることから。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉小高木。本州中部以北に分布。葉は深い切れ込みがなく倒卵形。別名マルバカエデ。
○	○	○				○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限釜石市。葉はサワシバやクマシデに似ている。和名は翼のある果実を千鳥に見立てたもの。別名ヤマシバカエデ。
	○	○					山地	落葉小高木。本州・四国・九州に分布。葉がカエデの仲間では最も小さい。別名メウリノキ。
○	○		○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は樹皮が鹿の子模様にはげることによる。別名ヤチイタヤ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限葛沼付近。別名コウモリカエデ。
			○	○			山地	落葉高木。北海道西南部・本州中部以北に分布。葉裏に毛がある。和名は樹皮が黒いイタヤの意味。
◎	○	○					山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限鳴子町。葉裏脈上に褐色の短毛がある。和名は葉の形がカジノキに似ることによる。別名オニモミジ。
○			○	○	○	○	亜高山	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。秋、葉が黄に色づく。葉脚に褐色の毛がある。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
かえで科 Aceraceae	ナンゴクミネカエデ	○	<i>Acer australe</i> (Momotani) Ohwi et Momotani					○	
	コミネカエデ	○	<i>Acer micranthum</i> Sieb. et Zucc.	◎	○	○	○	○	○
	テツカエデ	○	<i>Acer nipponicum</i> Hara				◎	○	
	オガラバナ	○	<i>Acer ukurunduense</i> Trautv. et Mey.	○			○	○	
	イタヤカエデ	○	<i>Acer mono</i> Maxim.	○	○	○	○	○	○
	オニイタヤ	○	<i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>ambiguum</i> (Pax) Rehd.	○	○				
	エゾイタヤ	○	<i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>glabrum</i> (Lév. et Van.) Hara	○	○	○	○	○	○
	ウラジロイタヤ		<i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>glaucum</i> (Koidz.) Honda						

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○				○	○	○	亜高山	落葉高木。本州・四国・九州に分布。葉の裂片が長く尾状にとがる。
○			○	○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限八甲田山。ミネカエデに似るが花や実が小さく、掌葉の真ん中の裂片が特に長い。別名コバナカエデ。
○			○	○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限安代町。新葉や花序に鉄さび色の縮れ毛がある。別名テツノキ。
○			○	○	○	○	亜高山	落葉高木。北海道・本州中部以北・四国に分布。花穂が直立することから別名ホザキカエデ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は葉がよく繁り板でふいた屋根のように雨をさえぎるの意味。秋に葉が黄色に色づく。かつてはこの樹液からカエデ糖を採取した。別名ツタモミジ・トキワカエデ。本種にはオニイタヤ・エゾイタヤ・ウラジロイタヤ・エンコウカエデ・ベニイタヤ等の変種が知られている。サトウカエデ(砂糖楓)は北米産。カナダの国樹で葉を国旗に表わしている。
			○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉は5～7浅裂し、裏面全体に短い毛がある。別名ケイタヤ。
○	○	○	○		○	○	山地	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。今年枝が有毛。葉裏面脈および葉柄上半分に細毛がある。別名オオエゾイタヤ。
					○	○	山地	落葉小高木。本州北部(日本海側)に分布。山形県南部にも産する。葉は3～5中裂し、葉裏面が粉白色を帯びる。別名コハイタヤ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
かえで科 Aceraceae	エンコウカエデ		<i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>marmoratum</i> (Nichols) Hara						
	ベニイタヤ	○	<i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>mayrii</i> (Schw.) Sugimoto	○	○	○	○	○	
	イロハモミジ	○	<i>Acer palmatum</i> Thunb.						植
	ヤマモミジ	○	<i>Acer palmatum</i> Thunb. var. <i>matsumurae</i> (Koidz.) Ogata	○	○	○	○	○	○
	オオモミジ	○	<i>Acer palmatum</i> Thunb. var. <i>amoenum</i> (Carr.) Ohwi	○	○	○	○	○	○
	コハウチワカエデ	▲	<i>Acer sieboldianum</i> Miq.			○	○	○	○
	オオイタヤメイゲツ	○	<i>Acer shirasawanum</i> Koidz.				○		◎
	ハウチワカエデ	▲	<i>Acer japonicum</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部				
					○		山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。葉は5角形で中裂する。別名アサヒカエデ。
○			○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州(日本海側)に分布。1, 2年枝が暗紅紫色で葉柄が紅い。別名アカカエデ・アカイタヤ。
栽								落葉高木。本州中部以南・四国・九州に分布。葉柄や花柄にはじめから毛がないのが特徴。和名は葉の裂片をイロハニホヘトと7つ数えられることによる。別名タカオカカエデは京都の紅葉の名所「高雄」に因む。コハモミジともいう。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。オオモミジに似ているが葉縁は重鋸歯となる。栗駒山塊には変種ナンブコハモミジ、山形県には品種ホンドウカエデが産する。園芸種が多く庭園樹に使用されている。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉縁は細鋸歯で重鋸歯とならない。別名ヒロハモミジ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉小高木。本州・四国・九州に分布。ハウチワカエデに似ているが葉は7~11に中裂し、単鋸歯または重鋸歯。葉柄の長さは葉身の半分以上。花は黄色。別名イタヤメイゲツ。
○					○	○	山地	落葉高木。本州・四国に分布。北限三陸町。葉は9~13浅・中裂し、裂片は短くとがり重鋸歯。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州に分布。葉柄の長さは葉身の半分以上。和名は葉の形を天狗のウチワに見立てたもの。別名メイゲツカエデ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分 布					
				青 森			岩 手		
				津 軽	下 北	上 北	奥 羽	北 上	三 陸
かえで科 Aceraceae	メグスリノキ	△	<i>Acer nikoense</i> Maxim.					◎	
	ミツデカエデ	△	<i>Acer cissifolium</i> (Sieb. et Zucc.) K. Koch	○	○	○	○	○	○
むくろじ科 Sapindaceae	モクゲンジ	○	<i>Koelreuteria paniculata</i> Laxm.	○					
とちのき科 Hippocastanaceae	トチノキ	○	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	○	○	○	○	○	○
あわぶき科 Sabiaceae	アワブキ	○	<i>Meliosma myriantha</i> Sieb. et Zucc.	○	◎	○	○	○	○
	ミヤマハハソ	○	<i>Meliosma tenuis</i> Maxim.						
くろうめ もどき科 Rhamnaceae	クロウメモドキ	△	<i>Rhamnus japonica</i> Maxim.	○	○	○	○	○	○
	クロカンバ	△	<i>Rhamnus costata</i> Maxim.				○	○	○
	ナンブクロカンバ	△	<i>Rhamnus costata</i> Maxim. form. <i>nambuana</i> (Honda) Hara			◎	○	○	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

宮 城	内 陸	沿 岸	阿 武 隈	秋 田	西 部	東 部	山 形	西 部	東 部	生 育 場 所	記 事
○	○	○					○	○		山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限藤沢町。和名は樹皮を煎じて洗眼薬にしたことから。別名チョウジャノキ。
○	○	○		○	○	○	○	○		山地	落葉高木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。三出複葉。別名ミツバカエデ。
			○							山地	落葉高木。本州(日本海側)に分布。別名センダンバノボダイジュ。寺院等に植栽されている。
○	○	○	○	○	○	○	○	○		山地	落葉高木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。蜜源植物。並木で有名なマロニエはセイヨウトチノキである。
○	○	○	○	○	○	○	○	○		山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限佐井村。和名は木を燃やすと切り口から泡がでるため。
○	○						○	○		山地	落葉小高木。本州・四国・九州に分布。和名は葉がハハソ(コナラ)に似ていて深山(ミヤマ)に生えるから。
○	○	○	○	○	○	○	○	○		山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。小枝が針化し先がとげ状となる。果実は黒熟する。別名エゾクロウメモドキ。
	○			○			○			山地	落葉低木。本州・四国に分布。和名は樹皮が黒紫色でシラカンバのように薄く横に剥げることに因む。
○							○			山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。北限十和田湖畔。クロカンバの品種で葉裏の脈上が無毛のもの。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分						
				青 森			岩 手			
				津	下	上	奥	北	三	
くろうめ もどき科 Rhamnaceae	イソノキ	○	<i>Rhamnus crenata</i> Sieb. et Zucc.	○	○		○	○	○	
	クロツバラ	△	<i>Rhamnus davurica</i> Pall. var. <i>nipponica</i> Makino	○			○	○	○	
	クマヤナギ	○	<i>Berchemia racemosa</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○	
	ホナガクマヤナギ	○	<i>Berchemia longeracemosa</i> Okuyama				○			
	ヨコグラノキ		<i>Berchemia berchemiaefolia</i> (Makino) Koidz.					○		
	ケンボナシ	○	<i>Hovenia dulcis</i> Thunb.	○		○		○	○	
ぶどう科 Vitidaceae	ヤマブドウ	○	<i>Vitis coignetiae</i> Pulliat	○	○	○	○	○	○	
	エビヅル	△	<i>Vitis ficifolia</i> Bunge var. <i>lobata</i> (Regel) Nakai	○	○	○	○	○	○	
	サンカクヅル	△	<i>Vitis flexuosa</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○	
	ノブドウ	○	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> (Maxim.) Trautv.	○	○	○	○	○	○	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○			○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。果実は球形で赤熟する。
							山地	落葉低木。本州中部以北に分布。別名オオクロウメモドキ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。花は夏に咲き、果実は翌年の夏黒熟する。
			○	○	○	○	山地	落葉藤本。本州(日本海側)に分布。直立性の低木。花序が長く葉も長い。
○							山地	落葉小高木。本州・四国・九州に分布。和名は高知県横倉山で最初に見つかったことによる。石灰岩地を好む。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。秋に紅葉が早く、赤紫色になる。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉藤本。北海道西南部・本州・四国・九州・沖縄に分布。別名エビカズラ。葉の切れ込みが深いものをキクバエビヅルという。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道西南部・本州・四国・九州・沖縄に分布。葉が薄く三角形であるのが特徴。別名ギョウジャノミズはつるの切り口から出る液汁が行者の喉を潤したといわれるため。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。果実は食べられないが焼酎漬にして肩凝りの妙薬。トチノキの実とハウズキの実を加えればさらに効果的とか。別名ウマブドウ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
ぶどう科 Vitidaceae	ツタ	○	Pharthenocissus tricuspidata (Sieb. et Zucc.) Planch.	◎		○	○	○	○
しなのき科 Tiliaceae	シナノキ	○	Tilia japonica (Miq.) Simonkai	○	○	○	○	○	○
	オオバボダイジュ	○	Tilia maximowicziana Shirasawa	○	○	○	○	○	○
またたび科 Actinidiaceae	サルナシ	▲	Actinidia arguta (Sieb. et Zucc.) Planch.	○	○	○	○	○	○
	マタタビ	▲	Actinidia polygama (Sieb. et Zucc.) Planch.	○	○	○	○	○	○
	ミヤママタタビ	▲	Actinidia kolomikta (Rupr. et Maxim.) Maxim.	○	○		○	○	○
つばき科 Theaceae	ヤブツバキ	○	Camellia japonica Linn.	◎					○
	ユキツバキ	○	Camellia japonica Linn. var. decumbens Sugimoto (C. rusticana Honda)				○		
	ヒサカキ	△	Eurya japonica Thunb.						○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

宮 城	阿 武 隈	秋 田	山 形	西 部	東 部	生 育 場 所	記 事
内 陸	沿 岸	西 部	東 部	西 部	東 部		
	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉藤本。本州・四国・九州に分布。北限深浦町。枝先に吸盤があり他物に吸着する。別名アマカズラは茎から甘い液がでることから。アマズラともいう。
○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は樹皮がしなしなししているからの説もある。樹皮でアツシを織った。世界の四大並木樹リンデバームはこの仲間。蜜源として貴重。
○		○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。この仲間では葉が最大で葉裏に粉白色の星状毛が密生する。別名オオバシナノキ。ボダイジュは中国原産。
○	○	○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。果実は熟すと淡緑色。生食や塩漬けにする。別名シラクチヅル。
○	○	○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道・本州・四国・九州に分布。花期に葉先の半分が白色となる。ネコの好物。
○		○	○	○	○	山地	落葉藤本。北海道・本州中部以北に分布。花期に葉先の半分が白色となり花後紅色を帯びる。マタタビとは異なりネコは好まない。別名ウスバシラクチヅル。
○	○	○	○		○	平地～山地	常緑高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限夏泊半島。花は全開。別名ヤマツバキ・ツバキ。ヤブツバキとユキツバキの中間のものをユキバツバキと呼ぶ。
		◎	○	○	○	山地	常緑低木。本州(日本海側多雪地帯)に分布。北限田沢湖町。秋田県の天然記念物(秋田営林局植物群落保護林)。別名サルイワツバキ・オクツバキ。
	○	○		○		平地～山地	常緑低木。本州・四国・九州に分布。材は細工物。枝葉は神前・仏前に供える。生け垣に活用する。サカキは福島県以南に分布。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
つばき科 Theaceae	ナツツバキ	○	<i>Stewartia pseudo-camellia</i> Maxim.						◎
いいぎり科 Flacourtiaceae	イイギリ	△	<i>Idesia polycarpa</i> Maxim.	◎					
きぶし科 Stachyuraceae	キブシ	△	<i>Stachyurus praecox</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○
じんちょうげ科 Thymelaeaceae	オニシバリ	△	<i>Daphne pseudo-mezereum</i> A. Gray						
	ナニワズ	△	<i>Daphne kamtschatica</i> Maxim. var. <i>jezoensis</i> (Maxim.) Ohwi (<i>D. pseudo-mezereum</i> A. Gray subsp. <i>jezoensis</i> (Maxim) Hamaya)	○	○			○	○
	カラスシキミ	△	<i>Daphne miyabeana</i> Makino	○	○	○	○	○	
ぐみ科 Elaeagnaceae	ナツグミ	○	<i>Elaeagnus multiflora</i> Thunb.			○	○	○	○
	トウグミ	○	<i>Elaeagnus multiflora</i> Thunb. var. <i>hortensis</i> (Maxim.) Serv.		○			○	
	アキグミ	○	<i>Elaeagnus umbellata</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武隈	部	部	部	部		
	○						山地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。北限大船渡市。別名シャラノキ。
○	○	○	○	○			山地	落葉高木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限岩崎村。材は箱材、下駄などに用いられる。別名トウセンダン。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。和名は果実を五倍子(フシ)の代用として黒色の染料としたことに因む。別名マメブシ。葉裏主脈に微毛があるものを変種ケキブシと呼び、秋田・山形県の多くはこれに属する。
					○		山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。根皮が紙の原料となる。時に観賞用に植栽される。別名ナツボウズ。
○			○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。母種(オニシバリ)に比べ葉の幅が狭く小さい。別名エゾナニワズ・エゾオニシバリ。
○			○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州中部以北(日本海側)に分布。別名ヤマシキミ。
○	○						平地～山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。果実の長さ18～20mm、花茎の長さ5～12mm。
○			○	○	○		平地～山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。ナツグミの変種。葉の表面に鱗片がなく、早く落ちる星状毛がある。別名ツクシグミ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。果実の長さ6～8mm、花茎の長さ10～30cm。別名フユグミ。山形県に変種ミチノクアキグミ(別名カラアキグミ)が産する。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分 布					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				怪	北	北	羽	上	陸
ぐみ科 Elaeagnaceae	マルバグミ	○	<i>Elaeagnus macrophylla</i> Thunb.						◎
	ナワシログミ	○	<i>Elaeagnus pungens</i> Thunb.						◎
うりのき科 Alangiaceae	ウリノキ	○	<i>Alangium platanifolium</i> (Sieb. et Zucc.) Harms var. <i>trilobum</i> (Miq.) Ohwi	○	○	○	○	○	○
うこぎ科 Araliaceae	オニウコギ	○	<i>Acanthopanax divaricatus</i> (Sieb. et Zucc.) Seemann	○	○	○	○	○	○
	ヤマウコギ	△	<i>Acanthopanax spinosus</i> (Linn. fil.) Miq.	○	○	○	○	○	○
	コシアブラ	○	<i>Acanthopanax sciadophylloides</i> Franch. et Savat.	○	○	○	○	○	○
	タラノキ	○	<i>Aralia elata</i> (Miq.) Seemann	○	○	○	○	○	○
	タカノツメ	△	<i>Evodiopanax innovana</i> (Sieb. et Zucc.) Nakai	○	○		○	○	○
	ヤツデ	○	<i>Fatsia japonica</i> (Thunb.) Decne. et Planch.						

○：同株 △：異株 ▲：雑株

宮 城	内 陸	沿 岸	阿 武 隈	秋 田	西 部	山 形	東 部	生 育 場 所	記 事
				○		○		海岸の断崖	常緑低木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限陸前高田市(日本海側北限秋田県由利地方)。別名オオバグミ。
								海岸の断崖	常緑低木。本州・四国・九州に分布。北限陸前高田市。果実は食用。
○	○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州・沖縄に分布。和名は葉がキウリの葉に似ていることから。葉が3~5個に中裂するものをモミジウリノキ。葉裏に細毛が密生するものをピロードウリノキといい山形に産する。湿性指標植物。
○	○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名ケヤマウコギ。
○	○	○	○	○	○	○	○	平地~山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。若枝、葉に毛がある。別名ウコギ。
○	○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。樹脂からとる油を金漆(ごんぜつ)といい、金属のさび止めに使った。別名ゴンゼツはこれに因む。材は経木、コケシなどに使われる。米沢市の一刀彫りは有名。若葉は食べられる。果実はクマの好物。
○	○	○	○	○	○	○	○	平地~山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。棘が少なく短いものをメダラと呼ぶ。山菜の王様。
○	○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は冬芽の形が鷹の爪を思わせることから。別名イモノキは枝がもろく折れやすいことによるという。
						○		平地	常緑高木。本州・四国・九州に分布。多くは観賞用に植栽。山形県飛島に産する。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
うこぎ科 Araliaceae	ハリギリ	○	Kalopanax pictus (Thunb.) Nakai	○	○	○	○	○	○
	ハリブキ	△	Oplopanax japonicus (Nakai) Nakai	○	○	○	○	○	○
	キツタ	○	Hedera rhombea (Miq.) Bean	○	○	○	○	○	○
みずき科 Cornaceae	ミズキ	○	Cornus controversa Hemsley	○	○	○	○	○	○
	クマノミズキ	○	Cornus brachypoda C. A. Mey. (C. macrophylla Rehder, prop., non Wall.)	○	○	○	○	○	○
	ヤマボウシ	○	Cornus kousa Buerger. ex Hance (Benthamia japonica Sieb. et Zucc.)	○	○	○	○	○	○
	ハナйкаダ	△	Helwingia japonica (Thunb.) F.G.Dietr.	○	○	○	○	○	○
	アオキ	△	Aucuba japonica Thunb.					○	◎

○：同株 △：異株 ▲：雑株

宮 城	内 陸	阿 武 隈	秋 田	西 部	東 部	山 形	西 部	東 部	生 育 場 所	記 事
○	○	○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名センノキ。材は建築用材、家具用材などに使用される。大工さんは材質によりヌカ(糠)セン、イシ(石)センを区別する。
○			○	○	○	○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道・本州中部以北・四国に分布。別名ジゴクバラ。葉裂片が浅いものをヒロハハリブキといい、東北ではこのほうが一般的。
○	○	○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	常緑藤本。北海道西南部・本州・四国・九州・沖縄に分布。木の幹や岩に気根でよじのぼる。和名は茎が太くなると大木化することによる。別名フユツタは冬でも葉が緑のため。
○	○	○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。葉は互生。和名は春先に枝を折ると樹液が滴り落ちるため。別名クルマミズギ。コケシ材として最適。
○	○	○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉が対生し若枝に稜線がある。和名は三重県熊野に産するミズキの意味。
○	○	○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。和名は頭花の白い総包片を僧の頭巾に見立てたもの。別名ヤマグワ。果実は食用。庭園樹。
○	○	○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州・沖縄に分布。葉の中央部の主脈上に花をつける。和名は花のつく様子を筏に見立てたことによる。別名マッコ。
○	○	○	○			○			山地	常緑低木。本州・四国・九州に分布。北限山田町。別名アオキバ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
みずき科 Cornaceae	ヒメアオキ	△	<i>Aucuba japonica</i> Thunb. var. <i>borealis</i> Miyabe et Kudo	○	○	○	○	○	○
いわうめ科 Diapensiaceae	イワウメ	○	<i>Diapensia lapponica</i> Linn. var. <i>obovata</i> Fr. Schm. (<i>D. lapponica</i> Linn. subsp. <i>obovata</i> (Fr. Schm.) Hult.)	○	○	○	○	○	
りょうふ科 Clethraceae	リョウブ	○	<i>Clethra barbinervis</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○
つつじ科 Ericaceae	アズマシャクナゲ	○	<i>Rhododendron metternichii</i> Sieb. et Zucc. var. <i>pentamerum</i> Maxim. (<i>Rhododendron degonianum</i> Carr.)				◎		
	ハクサンシャクナゲ	○	<i>Rhododendron brachycarpum</i> D. Don	○	○	○	○	○	○
	キバナシャクナゲ	○	<i>Rhododendron aureum</i> Georgi	○					
	ヤマツツジ	○	<i>Rhododendron kaempferi</i> Planch. (<i>R. obtusum</i> (Lindl.) Planch. var. <i>kampferi</i> (Planch.) Wils.)	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布						生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形		
内	沿	阿	西	東	西		
陸	岸	武	部	部	部		
○			○	○	○	山地	常緑低木。北海道・本州(日本海側)に分布。多雪地帯に多く、全体に小形で若枝や葉柄、葉裏、脈皮に微毛がある。アオキに比べて丈が低い。別名チャボアオキ。
○				○	○	高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。和名は花の形や大きさ色ともにウメの花を思わせ、岩場に多く見られることから。別名フキツメソウ。鳥海山に花が紅紫色のベニイワウメが産する。
○	○	○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。樹皮が滑らかで材は炭材、柄、床柱等に使われる。若芽は食用となる。
○					○	亜高山	常緑低木。本州北部に分布。宮城県花山村御嶽山が北限とされ(国指定天然記念物)ていたが、平成元年8月胆沢町で発見され新たな北限となる。別名シャクナゲ。
○			○	○	○	山地～亜高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。花冠の内側に淡緑色の斑点があるのが特徴。他に次の品種がある。シロバナシャクナゲ(陸中海岸北山崎のものは大木で有名)。ネモトシャクナゲ(ハクサンシャクナゲの八重咲き品で、和名は発見者・根本莞爾氏に因む。)
						高山の石礫地	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。
○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。花時に葉がない。別名アカツツジ。サツキは関東地方以西に自生し旧暦5月頃に咲くのでこの名があり花時に葉がある。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分						
				青 森			岩 手			
				津	下	上	奥	北	三	
				軽	北	北	羽	上	陸	
つつじ科 Ericaceae	コメツツジ	○	Rhododendron tschonoskii Maxim.	○	○	○	○	○		
	トウゴクミツバツツジ	○	Rhododendron wadanum Makino				○			
	ゴヨウツツジ	○	Rhododendron quinquefolium Bisset et Moore				◎			
	レンゲツツジ	○	Rhododendron japonicum (A. Gray) Suringer	○	○	○	○	○	○	
	ムラサキヤシオツツジ	○	Rhododendron albrechtii Maxim.	○	○	○	○	○	○	
	オオバツツジ	○	Rhododendron nipponicum Matsum.		○		○			
	ユキグニミツバツツジ	○	Rhododendron nudipes Nakai subsp. niphophilum Yamaz. (R. lagopus Nakai var. niphophilum (Planch.) Yamaz.)							
	バイカツツジ	○	Rhododendron semibarbatum Maxim.	○			○	○	○	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○		○	○	○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道西南部・本州・四国。九州に分布。葉の側脈不明。和名は小さな白色の花を米粒に見立てたもの。別名シロバナコメツツジ。花が紅色を帯びるものをベニバナコメツツジ。花冠が四裂するものをチョウジコメツツジと呼ぶ。
○	○	○				○	山地	落葉低木。本州中部以北(太平洋側)に分布。
○		○			○	○	山地	落葉低木。本州(太平洋側)・四国に分布。北限焼石岳。別名シロヤシオ・マツハダ。和名および別名の由来はシロヤシオ(花), ゴヨウツツジ(葉), マツハダ(樹皮)による。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。有毒植物。和名は花が輪のように並ぶので蓮華(ハス)に見立てたもの。放牧地に多いが牛馬も食べない。別名オニツツジ。山形県飯豊山に変種ウラジロレンゲツツジがある。
○	○		○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。和名は紫色の染料に何回もつけて染めあげたような色のツツジの意味。別名ミヤマツツジ。
○			○	○	○	○	山地	落葉低木。本州中部以北(日本海側)に分布。花は白く釣鐘型。和名は大きな葉が枝の先に集まることによる。
			○	○	○	○	山地	落葉低木。本州中部以北(日本海側)に分布。花柄やがく全体に淡褐色の軟毛が密生する。サイゴクミツバツツジの変種, ダイセンミツバツツジの亜種とする説がある。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。和名は梅の花を連想させることから。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
つつじ科 Ericaceae	オオコメツツジ	○	Rhododendron trinerve Franch.						
	ヒメシャクナゲ	○	Andromeda polifolia Linn.	○			○		
	カラフトシャクナゲ	○	Andromeda polyfolia Linn. var. minor G. Don					●	
	エゾツツジ	○	Rhododendron camtschaticum Pall.				○	○	
	ヤチツツジ	○	Chamaedaphne calyculata (Linn.) Moench						
	イワヒゲ	○	Cassiope lycopodioides (Pall.) D. Don	○			○	○	
	イワナシ	○	Epigaea asiatica Maxim.	○	○	○	○		
	アカモノ	○	Gaultheria adenothrix (Miq.) Maxim.	○	○	○	○	○	
	シラタマノキ	○	Gaultheria miqueliana Takeda (G. pyroloides Hook. et Thoms.)	○			○		

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城			秋	田	山 形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
			○	○	○	○	亜高山	落葉低木。本州中部以北(日本海側)に分布。葉に3脈がある。別名シロバナコメツツジ。
				○		○	亜高山の湿原	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。学名(属名)アンドロメダはギリシャ神話の女王アンドロメダヤに由来する。高層湿原に生える。別名ニッコウシャクナゲ。
							高山	常緑低木。南限早池峰山。
				○		○	高山	落葉低木。北海道・本州北部に分布。日本産野生ツツジ類のうち最小のもの。高さ10~30cm。別名カラフトツツジ。
				○			亜高山	常緑低木。寒地に多い。別名ホロムイツツジ。
○			○	○	○	○	高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。和名は岩の隙間に生え茎が髭状に垂れることによる。
○			○	○	○	○	山地	常緑低木。北海道西南部・本州に分布。実は甘酸っぱくナシに似ているのでこの名がある。別名イワツバキ。
○			○	○	○	○	高山	常緑低木。北海道・本州・四国に分布。和名はアカモモが転化したものといわれている。モモは桃ではなく液果の総称。別名イワハゼは岩地などに生えることから。
○			○	○	○	○	亜高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。果実をつぶすとサロメチールの香りがする。別名シロモノ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
つつじ科 Ericaceae	ハリガネカズラ	○	<i>Gaultheria japonica</i> (A. Gray) Sleumer (<i>Chiogenes japonica</i> A. Gray.)					◎	
	ドウダンツツジ	○	<i>Enkianthus perulatus</i> (Miq.) Schn.						植
	ミネズオウ	○	<i>Loiseleuria procumbens</i> (Linn.) Desv.	○			○		
	ネジキ	○	<i>Lyonia ovalifolia</i> (Wall.) Drude var. <i>elliptica</i> (Sieb. et Zucc.) Hand-Mazz.					◎	○
	アセビ	○	<i>Pieris japonica</i> (Thunb.) D. Don.						
	アキシバ	○	<i>Vaccinium japonicum</i> Miq.	○	○	○	○	○	○
	ホツツジ	○	<i>Tripetaleia paniculata</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○
	ミヤマホツツジ	○	<i>Tripetaleia bracteata</i> Maxim.	○	○	○	○	○	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
						○	亜高山	本州中部以北に分布。北限薬師岳。和名は茎が細く針金状でつる草状となるから。
栽								落葉低木。本州中部以南に分布。和名は枝の分枝の状態が昔宮中夜間行事の時などに用いられた結び灯台の脚に似ていることから。
○				○	○	○	高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。和名は葉がスオウ(イチイのこと)に似ていて高山にあるため。葉の先端が黄色のものを品種ツマキミネズオウ、葉が枝に密生し著しく小さいものを変種ヒメミネズオウと呼び山形県に産する。
○	○	○					山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限陸前高田市。和名は幹がねじれていことから。別名カシオシミ。有毒植物。
		◎					山地	常緑低木。本州・四国・九州に分布。北限丸森町。漢字名馬酔木は牛馬が葉を食べると酔ったようになるため。有毒植物。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。幹が扁平である。山形県には品種ハゴロモアキシバ(葉が長被針形)、ヒロガクアキシバ(萼裂片広卵形)が産する。
○		○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。花弁3裂。さく果とがくとの間に短い柄がある。葉先が鋭頭から鈍頭。花穂に托葉はない。別名マツノキハダ。有毒植物。
○			○	○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。花弁5裂。さく果とがくとの間に柄がない。葉先は円頭。花穂に托葉がある。別名ハコツツジ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：本限

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
つつじ科 Ericaceae	チシマツガザクラ	○	Bryanthus gmelinii D. Don	○		○		●	
	ツガザクラ	○	Phyllodoce nipponica Makino						
	ナガバツガザクラ	○	Phyllodoce nipponica Makino var. oblongo-ovata (Tatew.) Toyokuni				○		
	アオノツガザクラ	○	Phyllodoce aleutica (Spreng.) A.Heller	○			○	○	
	エゾノツガザクラ	○	Phyllodoce caerulea (Linn.) Babington	○				●	
	コメバツガザクラ	○	Arctericia nana (Maxim.) Makino	○			○	○	
	イソツツジ	○	Ledum palustre Linn. var. diversipilosum Nakai	○	○	○	○	○	
	ジムカデ	○	Harrimanella stelleriana (Pall.) Coville						

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮 城		秋 田		山 形				
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
							亜高山	常緑低木。北海道・本州北部に分布。南限早池峰山。和名は千島で発見され、葉の形がツガザクラに似ているから。別名ヒメツガザクラ。
○				○	○	○	高山	常緑低木。本州中部以北・四国に分布。和名は葉が針葉樹のツガの葉に似て花はサクラのようであることによる。
○				○		○	高山	常緑低木。北海道・本州北部に分布。
○			○	○	○	○	高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。和名は緑黄色の花による。
					○		高山	常緑低木。北海道・本州北部に分布。南限早池峰山。日本海側は月山、鳥海山に産する。
○			○	○	○	○	高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。和名は葉が米粒のように小形であることから。別名ハマザクラ。
○			○	○		○	山地～亜高山	落葉低木。北海道・本州北部に分布。高層湿原、硫気孔周辺に自生。別名エゾイソツツジ。
					○	○	高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。山形県月山に産する。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
つつじ科 Ericaceae	ハナヒリノキ	○	<i>Leucothoe grayana</i> Maxim.	○	○	○	○	○	○
	アブラツツジ	○	<i>Enkianthus subsessilis</i> (Miq.) Makino						
	サラサドウダン	○	<i>Enkianthus campanulatus</i> (Miq.) Nichols	○			○	○	○
	ウラジロヨウラク	○	<i>Menziesia multiflora</i> Maxim.	○	○	○	○	○	○
	ゴヨウザンヨウラク	○	<i>Menziesia goyozanensis</i> M. Kikuchi					★	
	コヨウラクツツジ	○	<i>Menziesia pentandra</i> Maxim.	○	○	○	○	○	○
	ヒメウスノキ	○	<i>Vaccinium yatabei</i> Makino				○	○	◎
	ツルコケモモ	○	<i>Vaccinium oxycoccus</i> Linn.	○		○	○		

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。和名のハナヒリはクシャミのことで、葉を粉にして鼻に入れるとクシャミが出るためにこの名がある。枝葉をウジ殺しに使う。有毒植物。多くの変種・品種等がある。葉が大形で幅広く、毛の少ないものをヒロハハナヒリノキ。葉が小形で葉裏が粉白色を帯びるものをウラジロハナヒリノキ。葉が大きく楕円形で裏が粉白色のものをエゾウラジロハナヒリノキ(別名ヒロハハナヒリノキ)と呼ぶ。また、ウスユキハナヒリノキはウラジロハナヒリノキとハナヒリノキとの中間型。
◎	○	○				○	山地	落葉低木。本州中部以北に分布。北限仙台市。緑白色の釣り鐘状の花が下垂する。別名ホオキヤシオ。
○		○	○	○	○	○	山地～亜高山	落葉低木。北海道西南部・本州・四国に分布。花は釣り鐘形。淡黄色で淡紅色の条がある。別名フウリンツツジ。生垣などに使われている白花のものはドウダンツツジ。
○			○	○	○	○	山地～亜高山	落葉低木。本州中部以北に分布。本種はがくが短い。がくが長いものをガクウラジロヨウラクと呼ぶ。
							山地～亜高山	落葉低木。五葉山固有種。
○	○		○	○	○	○	山地～亜高山	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉の裏面は白色を帯び脈に粗毛を散生する。別名アオツリガネツツジ。
○			○	○	○	○	亜高山	落葉低木。本州中部以北に分布。北限久慈市遠島山または岩手山。別名アオジクスノキ。
○			○	○	○	○	亜高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。高層湿原にミズゴケと一緒に生える。実は赤熟して食べられる。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
つつじ科 Ericaceae	マルバウスゴ	○	<i>Vaccinium shikokianum</i> Nakai						
	オオバスノキ	○	<i>Vaccinium smallii</i> A. Gray	○	○	○	○	○	○
	イワツツジ	○	<i>Vaccinium praestans</i> Lamb.	○			○		
	コケモモ	○	<i>Vaccinium vitis-idaea</i> Linn.	○	○	○	○	○	○
	ウラシマツツジ	○	<i>Arctous alpinus</i> (Linn.) Niedenzu. var. <i>japonicus</i> (Nakai) Ohwi				○	○	
	クロマメノキ	○	<i>Vaccinium uliginosum</i> Linn.				○	○	○
	クロウスゴ	○	<i>Vaccinium ovalifolium</i> J.E.Smith	○	○	○	○	○	
	ウスノキ	○	<i>Vaccinium hirtum</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○
	ナツハゼ	○	<i>Vaccinium oldhamii</i> Miq.	○	○	○	○	○	○
やぶこうじ科 Myrsinaceae	ヤブコウジ	○	<i>Ardisia japonica</i> (Thunb.) Blume	○	○	○	○		○
かきのき科 Ebenaceae	マメガキ	△	<i>Diospyros lotus</i> Linn.						植

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮 内	城 沿	阿 武 隈	秋 西 部	田 東 部	山 西 部	形 東 部		
陸	岸	限	部	部	部	部		
				○	○	○	高山	落葉低木。本州北部(日本海側)に分布。生育地は主に雪田。
○			○	○	○	○	山地～亜高山	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。生育地は尾根などの乾燥地。
			○	○	○		高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。
○			○	○	○	○	高山	常緑低木。北海道・本州・四国に分布。液果は紅熟し食べられる。別名イワモモ。
					○	○	高山	常緑低木。北海道・本州中部以北に分布。和名は葉裏の網目状の縞模様に基づく。別名クマコケモモ。
○					○	○	亜高山	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。別名ダケグミ。山形県朝日・飯豊・吾妻に葉など全体的に小さいコバノクロマメノキがある。
○			○	○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。和名は果実が黒く熟し、その先端が白(うす)のようにへこむことによる。秋田県八幡平に変種ケバノクロウスゴが産する。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州(日本海側)・九州に分布。和名は果実が赤熟し、先端部が白のようにへこむことによる。別名カクミノスノキ。山形県に葉が小さく広卵形のマルバカクミノスノキが産する。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名コハゼ。
○	○	○	○	○	○	○	山地	常緑低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。実は赤熟する。別名ヤマタチバナ。盆栽に使用される。
栽								落葉高木。アジア原産。日本には古くから渡来。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
はいのき科 Symplocaceae	サワフタギ	○	<i>Symplocos chinensis</i> (Lour.) Druce var. <i>leucocarpa</i> (Nakai) Ohwi form. <i>pilosa</i> (Nakai) Ohwi	○	○	○	○	○	○
えごのき科 Styracaceae	エゴノキ	○	<i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○
	ハクウンボク	○	<i>Styrax obassia</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	○
	アサガラ	○	<i>Pterostyrax corymbosa</i> Sieb. et Zucc.				◎		
	オオバアサガラ	○	<i>Pterostyrax hispida</i> Sieb. et Zucc.						
もくせい科 Oleaceae	ミヤマアオダモ	△	<i>Fraxinus apertisquamifera</i> Hara						
	トネリコ	△	<i>Fraxinus japonica</i> Blume				○	○	○
	デワノトネリコ	△	<i>Fraxinus japonica</i> Blume var. <i>stenocarpa</i> (Koidz.) Ohwi					○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈 部	西 部	東 部	西 部	東 部		
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。果実は無毒である。別名ルリミノリウシコロシは強靱な材と瑠璃色の実に因んだ名である。このほかにニシゴリともいう。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州・沖縄に分布。和名は果皮が「えごい」ためとされているが小鳥が喜ぶエサである。別名チシャノキ。
			○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名は白い花が群がって咲く様子を白雲に見立てたもの。別名オオバチシャ。種子から採油する。
							山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限焼石岳。和名は皮をむいた麻の木部のように材が軟かく枝が折れやすいため。
◎		○				○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。北限笹谷。日本海側分布は山形市切畑。別名ケアサガラ。
						○	山地	落葉高木。本州中部以北・四国に分布。芽の鱗片が早くから左右に開き、縁や内面に褐色綿毛が密生。
			○	○	○	○	山地	落葉高木。本州中部以北に分布。葉軸の節の上面に褐色の縮毛がある。和名は枝を何回もねじって物をしばるのに使うため「十練り」。別名ササトネリコ・タモノキ・モエブトル。材は器具、ロクロ細工に用いる。
						○	山地	落葉高木。本州中部以北に分布。母種との相違点は果実が狭皮針形でとがり毛が密生すること。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
もくせい科 Oleaceae	ヤチダモ	△	<i>Fraxinus mandshurica</i> Rupr. var. <i>japonica</i> Maxim.	○	○	○	○	○	○
	アラゲアオダモ	△	<i>Fraxinus pubescens</i> (Koidz.) Murai n. St.	○	○	○	○	○	○
	マルバアオダモ	△	<i>Fraxinus sieboldiana</i> Blume	○	○	○	○	○	○
	ヤマトアオダモ	△	<i>Fraxinus longicuspis</i> Sieb. et Zucc.	○		○	○	○	○
	イボタノキ	○	<i>Ligustrum obtusifolium</i> Sieb. et Zucc.	○	○	○	○	○	
	オオバイボタ	○	<i>Ligustrum ovalifolium</i> Hassk.			○			○
	ミヤマイボタ	○	<i>Ligustrum tschonoskii</i> Decne.	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋	田	山 形				
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
○			○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州中部以北に分布。葉は奇数羽状複葉，小葉は7～11枚で基部に赤褐色の綿毛を密生する。材は建築，器具等に用いる。類似種のシオジは関東以西に分布する。
○	○		○	○	○	○	山地	落葉高木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉は奇数羽状複葉。小葉5～7枚で毛が密生する。別名ケアオダモ。枝や花序，芽などにはほとんど毛のないものを変種アオダモという。枝を切って水につけると水が青くなるのでこの名がある。別名コバノトネリコ，アオタゴ。
○	○		○	○	○	○	山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。小葉は5枚が普通で鋸歯は低く不明瞭。若い枝に短い腺毛がある。別名トサトネリコ・コガネアオダモ。
	○		○	○	○		山地	落葉高木。本州・四国・九州に分布。アオダモよりも大木になる。小葉は5～9枚で葉軸は小葉のつけ根で曲がっている。別名オオトネリコ・シロダモ。
○	○		○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。この木の仲間は樹皮にイボタムシがつきイボタロウが採れる。これを敷居に塗ると戸の滑りが良くなるのでトスベリの別名がある。
	○		○				平地	常緑低木。本州・四国・九州に分布。枝は灰褐色で無毛。葉はやや厚く光沢がある。生垣に植栽されている。
○			○	○	○	○	平地～亜高山	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。葉の先がとがり，かくに毛がない。別名オクイボタ。秋田・山形県には母種ミヤマイボタに比べ葉裏の中央脈のみ微毛のあるエゾイボタ，葉が両面無毛のエゾヤマイボタ，葉は大きく表裏に有毛のオクノハマイボタがある。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
もくせい科 Oleaceae	ハシドイ	○	<i>Syringa reticulata</i> (Blume) Hara	○	○		○	○	○
ふじうつぎ科 Loganiaceae	フジウツギ	○	<i>Buddleja japonica</i> Hemsl.			○		○	○
きょうちく とう科 Apocynaceae	テイカカズラ	○	<i>Trachelospermum asiaticum</i> (Sieb. et Zucc.) Nakai					○	○
くまつぶら科 Verbenaceae	ムラサキシキブ	○	<i>Callicarpa japonica</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○
	コムラサキ	○	<i>Callicarpa dichotoma</i> (Lour.) K. Koch				◎	○	
	ヤブムラサキ	○	<i>Callicarpa mollis</i> Sieb. et Zucc.						
	クサギ	○	<i>Clerodendrom trichotomum</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○
	ハマゴウ	○	<i>Vitex rotundifolia</i> Linn. fil.	○	○				○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮	城	秋	田	山	形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
限								
○		○	○	○	○	○	低山・山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。庭などによく植えられているものは欧州原産のライラックで日本名はムラサキハシドイである。リラとも呼ばれる。
○		○				○	山地	落葉低木。本州中部以北(太平洋側)に分布。茎は四角で稜上に翼がある。山形県は関山峠・蔵王・奥山寺等に産する。有毒植物。
○	○	○	○		○		平地～山地	常緑藤本。本州・四国・九州に分布。別名セキダカツラ。山形県には次の変種が産する。葉に毛のあるケテイカカズラ。全体が無毛のチョウセンテイカカズラ、ケナシテイカカズラ。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州・沖縄に分布。和名は果実の美しさを「源氏物語」の作者紫式部にたとえたもの。学名(属名)は、美しい果実の意。山形県の日本海沿岸地方には花序が大きい変種オオムラサキシキブがある。
					○	○	山地	落葉低木。本州・四国・九州・沖縄に分布。北限盛岡市。山形県遊佐町・村山市・羽黒町に産する。別名コシキブ。
	○	○					平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。枝葉に星状毛が多く、がくは有毛で深く4～5裂する。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州・沖縄に分布。枝葉に特有の臭気がある。別名クサギリ。花によくカラスアゲハ(蝶)が吸蜜のために飛来する。若葉は食用になる。
	○	○		○			海岸砂地	落葉低木。本州・四国・九州・沖縄に分布。和名はこの枝葉を粉末にして線香をつくるので浜香の意味もある。別名ハマボウ・ハマハイ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：本産

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
しそ科 Labiatae	イブキジャコウソウ	○	<i>Thymus quinquecostatus</i> Celak. (<i>T. serpyllum</i> Linn. subsp. <i>quinquecostatus</i> (Celak.) Kitam.)	○	○			○	○
なす科 Solanaceae	タコ	○	<i>Lycium chinense</i> Mill.						植
ごまのはぐさ科 Scrophulariaceae	キリ	○	<i>Paulownia tomentosa</i> (Thunb.) Steud.						植
	タイワンギリ	○	<i>Paulownia kawakamii</i> T. Ito						植
のうぜんかずら科 Bignoniaceae	キササゲ	○	<i>Catalpa ovata</i> G. Don						植
	ハナキササゲ	○	<i>Catalpa speciosa</i> Ward.						植
	ノウゼンカズラ	○	<i>Catalpa chinensis</i> Voss						植
すいかずら科 Caprifoliaceae	ハコネウツギ	○	<i>Weigela coraeensis</i> Thunb.	○	○	○			
	タニウツギ	○	<i>Weigela hortensis</i> (Sieb. et Zucc.) K. Koch	○	○	○	○	○	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
○			○	○	○	○	山地～亜高山	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。和名はこの花に麝香鹿に似た芳香があり、滋賀県伊吹山に多いことから。別名イワジャコウソウ。日本海側には、白花のシロバナジャコウソウが産する。
栽								落葉低木。本州・四国・九州・沖縄に分布。若葉は食用になる。
栽								落葉高木。中国原産(日本産、朝鮮産説もある)。家具(タンス)材に使用される。
栽								落葉高木。台湾原産。下駄材、箱材に使用(材質はキリより劣る)。各地に植栽されている。
栽								落葉低木。中国原産。川原などでしばしば野生化。花は淡黄色で暗紫色の斑点がある。和名はササゲのような果実(さく果)に因む。
栽								落葉低木。北米原産。花は白色で内側に紫色の筋があり裂片の縁はあまり縮れない。別名オオアメリカキササゲ。
栽								落葉藤本。中国原産。気根でよじ登る。観賞用に栽培。
	○						平地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州(太平洋側)に分布。花は白色から赤色に変わる。別名ゲンペイウツギ。ハコネウツギというが箱根にはないといわれる。各地の畑の境などに植えられている。
○	○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州(日本海側)に分布。葉裏の中央脈の上にほとんど毛がない。別名ベニウツギ。シロバナタニウツギ(白花品)も産する。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
すいかずら科 Caprifoliaceae	ウコンウツギ	○	Weigela middendorffiana (Carr.) K. Koch	○		○	●	○	
	キバナウツギ	○	Weigela maximowiczii (Moore) Rehd. (Weigelastrum maximowiczii (Moore) Nakai)						
	ニシキウツギ	○	Weigela decora (Nakai) Nakai						
	ツクバネウツギ	○	Abelia spathulata Sieb. et Zucc.	○				○	○
	ウゴツクバネウツギ	○	Abelia spathulata Sieb. et Zucc. var. stenophylla Honda	○				○	○
	スイカズラ	○	Lonicera japonica Thunb.	○	○	○	○	○	○
	ウグイスカグラ	○	Lonicera gracilipes Miq. var. glabra Miq.					○	○
	クロミノウグイスカグラ	○	Lonicera caerulea Linn. var. emphylocalyx (Maxim.) Nakai				○	○	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布						生 育 場 所	記 事
宮 城		秋 田	山 形				
内 陸	沿 岸		西 部	東 部			
			○			亜高山	落葉低木。北海道・本州北部に分布。南限焼石岳。早池峰山，岩手山，八甲田山，岩木山などに知られている。
○			○	○	○	山地	落葉低木。本州中北部に分布。ウコンウツギに似るが無花柄でさく果が先から開裂する。
○	○				○	山地	落葉低木。本州中部以北(太平洋側)に分布。和名は花が淡黄白色から紅色に変わることから。ニシキウツギの変種に花ははじめから紅色で変わらないベニバナニシキウツギがある。
○	○	○				山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。和名は果実の形が追い羽根に似ているから。別名コツクバネ。
			○	○	○	山地・亜高山	落葉低木。本州中部以北に分布。和名は果実がツクバネに似ていることから。小枝を束ねてホーキをつくる。
○	○	○	○	○	○	平地～山地	落葉藤本。北海道西南部・本州・四国・九州・沖縄に分布。和名は花に甘みがあって小児が口をつけて吸ったこと，葉をおできの吸い出し葉に使ったことによる。別名キンギンカ・ニンドウ。
	○				○	平地～山地	落葉低木。本州・四国に分布。葉は表裏とも無毛で花は淡紅色。果実は赤色。ウグイスカグラ類は花も実も下向き。
			○	○	○	亜高山	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。若葉は表裏とも有毛で成葉は脱落して無毛。花は黄白色，果実は青黒色。変種に葉が長楕円，花は黄白色，果実は青黒色で若いとき全体に長軟毛を密生するケヨノミがある。早池峰山に産する。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
すいかずら科 Caprifoliaceae	マルバヨノミ	○	<i>Lonicera caerulea</i> Linn. var. <i>venulosa</i> (Maxim) Rehd.				○	○	
	キンギンボク	○	<i>Lonicera morrowii</i> A. Gray	○	○	○	○	○	○
	チチブヒョウタンボク	○	<i>Lonicera ramosissima</i> Franch. et Savat. var. <i>borealis</i> Koidz.						
	アラゲヒョウタンボク	○	<i>Lonicera strophophora</i> Franch.	○	○	○	○	○	
	ナンプヒョウタンボク	○	<i>Lonicera strophophora</i> Franch. var. <i>glabrifolia</i> Ohwi					○	
	ニッコウヒョウタンボク	○	<i>Lonicera mochidzukiana</i> Makino						
	ミヤマウグイスカグラ	○	<i>Lonicera gracilipes</i> Miq. var. <i>glandulosa</i> Maxim.				○	○	○
	エゾヒョウタンボク	○	<i>Lonicera alpigena</i> Linn. var. <i>glehnii</i> (Fr. Schm.) Nakai				○		
	イボタヒョウタンボク	○	<i>Lonicera demissa</i> Rehd.						

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生育場所	記 事
宮 城			秋	田	山 形			
内	沿	阿	西	東	西	東		
陸	岸	武	部	部	部	部		
○			○	○			亜高山	落葉低木。北海道西南部・本州中部以北に分布。若枝、葉に毛が少ない。花は黄白色。果実は青黒色。
○			○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道西南部・本州中部以北(日本海側)に分布。和名は花がはじめ白く、後に黄色に変わり全体として白と黄色が入り混ったように見えるため。別名ヒョウタンボクは2果がくっついてヒョウタンの形に見えることから。
○						○	山地	落葉低木。本州中部以北に分布。宮城県定義山付近、野尻。山形県奥山寺に産する。別名コウグイスカグラ・ハクサンヒョウタンボク・ヒメヒョウタンボク。
○			○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国に分布。花冠は漏斗状、先は5つに裂け2唇形。和名は子房に毛があり、果がヒョウタン形に見えるため。別名オオバヒョウタンボク。
							山地	落葉低木。本州北部に分布。葉の両面が無毛で縁だけに長い粗毛がある。五葉山、早池峰山、片葉山等に産する。
◎							山地	落葉低木。本州中部以北に分布。北限仙台市。
○	○					○	山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。枝および葉の両面や花冠に褐色毛が密生し、花は淡紅色で果実も紅色。腺毛がある。別名ウラナミウグイスカグラ。岩手県宮古市重茂に変種ヤマウグイスカグラがある。
			○				山地	落葉低木。北海道・本州北部に分布。別名オオバブシダマ。
						○	山地	落葉低木。本州中部以北に分布。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
すいかずら科 Caprifoliaceae	キタカミヒョウタンボク	○	<i>Lonicera demissa</i> Rehd. var. <i>borealis</i> Hara et M. Kiuchi					★	
	ハナヒョウタンボク	○	<i>Lonicera maackii</i> (Rupr.) Maxim.			◎	○	○	○
	ヤブヒョウタンボク	○	<i>Lonicera linderifolia</i> Maxim.					★	
	ニワトコ	○	<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex Graebn. (<i>S. racemosa</i> Linn. subsp. <i>sieboldiana</i> (Miq.) Hara)	○	○	○	○	○	○
	エゾニワトコ	○	<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex Graebn. var. <i>miquelii</i> (Nakai) Hara		○		○		
	ガマズミ	○	<i>Viburnum dilatatum</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○
	ミヤマガマズミ	○	<i>Viburnum wrightii</i> Miq.	○	○	○	○	○	○
	オトコヨウゾメ	○	<i>Viburnum phlebotrichum</i> Sieb. et Zucc.						
	ヤブデマリ	○	<i>Viburnum plicatum</i> Thunb. var. <i>tomentosum</i> (Thunb.) Miq.				○	◎	○

○：同株 △：異株 ▲：雑株

宮 城	阿 武 隈	秋 田	山 形	生 育 場 所	記 事
内 陸	沿 岸	西 部	東 部		
				山地	落葉低木。本州北部に分布。イボタヒョウタンボクの変種。葉や花が大きい。岩手県固有変種。
				山地	落葉低木。本州中部以北に分布。北限階上岳。
				山地	落葉低木。北上山地(早池峰山, 五葉山)の固有種。
○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名セッコツボクは窯焼きにした材が骨折の薬になることから。漢字で接骨木。随を顕微鏡のプレパラート作成に使用する。日本海側の多雪地帯で主幹が伏すものをオオニワトコという。
	○	○		山地	落葉低木。北海道・本州中部以北に分布。全体にニワトコより大ぶりで花序の粒状突起が長く、毛のようになっているのが特徴である。
○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。北海道西南部・本州・四国・九州に分布。和名のズミは酸っぱい実、ガマは鎌で材を鎌の柄にすることによる。別名ヨツズミ・アラゲガマズミ。
○	○	○	○	山地	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。全体に毛が少なく、星状毛はなく、特に若い枝には毛が少ないかまたは全く無毛である。葉に光沢がなく、大きく薄いオオミヤマガマズミがある。
○	○	○		平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。和名は男ガマズミの意味であるがガマズミよりも女性的である。別名コソネ。
○	○	○		平地～山地	落葉低木。本州・四国・九州に分布。北限盛岡市。別名ヤマデマリ。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

科 名	種 名	雌雄	学 名	分					
				青 森			岩 手		
				津	下	上	奥	北	三
				軽	北	北	羽	上	陸
すいかずら科 Caprifoliaceae	ケナシヤブデマリ	○	<i>Viburnum plicatum</i> Thunb. var. <i>glabrum</i> (Koidz.) Hara	○	○		○		
	マルバゴマギ	○	<i>Viburnum sieboldii</i> Miq. var. <i>obovatifolium</i> Sugimoto	○	○		○		
	オオカメノキ	○	<i>Viburnum furcatum</i> Blume	○	○	○	○	○	○
	カンボク	○	<i>Viburnum opulus</i> Linn. var. <i>calvescens</i> (Rehd.) Hara	○	○	○	○	○	○
	リンネソウ	○	<i>Linnaea borealis</i> Linn.	○		○		○	

○：同株 △：異株 ▲：雑株

布							生 育 場 所	記 事
宮 城		秋 田	山 形					
内 陸	沿 岸	阿 武 隈	西 部	東 部	西 部	東 部		
陸	岸	隈	部	部	部	部		
			○	○	○	○	平地～山地	落葉低木。本州中部以北(日本海側)に分布。星状毛が少なく葉は大きい。別名ヒロハヤブデマリ。花序が球形で白花の不稔花からなっているのがオオデマリ。
○			○	○	○	○	山地	落葉低木。本州中部以北(日本海側)に分布。母種ゴマギに比べ葉が大形。別名ヒロハゴマギ。
○	○	○	○	○	○	○	山地～亜高山	落葉低木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名ムシカリは葉が虫に食われて穴があいていることから。
○	○	○	○	○	○	○	山地	落葉小低木。北海道・本州・四国・九州に分布。別名ケナシカンボク。
				○	○	○	亜高山	常緑小低木。北海道・本州中部以北に分布。和名も学名もスウェーデンの植物学者カールフォン・リンネを記念してつけられたもので、別名メオトバナは1枝に常に2個の花がつくため夫婦になぞらえたもの。エゾアリドウシともいう。

○：有 ★：固有 ◎：北限 ●：南限

樹木名索引

ア

アイズシモツケ	78
アオキ	110
アオキバ	111
アオジクスノキ	123
アオジクマユミ	93
アオタゴ	129
アオツリガネツツジ	123
アオトドマツ	24
アオノツガザクラ	120
アオネザサ	35
アオハダ	88
アオハダニシキギ	94
アカイタヤ	99
アカエゾマツ	24
アカカエデ	99
アカガシ	48
アカシデ	46
アカダモ	53
アカトドマツ	24
アカツツジ	113

アカマツ	28
アカミノイヌツゲ	88
アカメガシワ	86
アカメヤナギ	36
アカモノ	116
アカネカズラ	91
アキグミ	106
アキニレ	52
アクシバ	118
アケビ	56
あけび科	56
アケビカズラ	57
アケボノスギ	29
アサガラ	126
アサダ	48
アサヒカエデ	99
アシュウスギ	29
アズキナシ	72
アズサ	43
アズサカンバ	43
アスナロ	30
アズマザサ	34
アズマシノ	33
アズマシャクナゲ	112

アズマネザサ	32
アセビ	118
アツシ	53
アブラチャン	60
アブラツツジ	122
アベマキ	52
アマカズラ	105
アメリカスズカケノキ	64
アラカシ	50
アラゲアオダモ	128
アラゲガマズミ	139
アラゲヒョウタンボク	136
アララギ	23
アワイチゴ	77
アワブキ	100
あわぶき科	100

イ

イイギリ	106
いいぎり科	106
イシソネ	47
イソツツジ	120
イソノキ	102

イタチハギ	80
イタヤカエデ	96
イタヤメイゲツ	99
イチイ	22
いちい科	22
イチジク	54
イチヨウ	22
いちょう科	22
イチロベエゴロシ	87
イトヤナギ	41
イヌエンジュ	80
イヌガヤ	22
いぬがや科	22
イヌグス	61
イヌコリヤナギ	38
イヌザクラ	68
イヌザンショウ	84
イヌシデ	46
イヌツゲ	88
イヌツルウメモドキ	91
イヌブナ	48
イブキ	33
イブキジャコウソウ	132
イブキビャクシン	33

イボタノキ	128
イボタヒョウタンボク	136
イモノキ	109
いらくさ科	54
イロハモミジ	98
イワウメ	112
いわうめ科	112
イワウメズル	90
イワガラミ	62
イワグルマ	77
イワジャコウソウ	133
イワツツジ	124
イワツバキ	117
イワテヤマナシ	70
イワナシ	116
イワヒゲ	116
イワフジ	81
イワモモ	125
イワヤナギ	37

ウ

ウグイスカグラ	134
ウコギ	109

うこぎ科	108
ウゴツクバネウツギ	134
ウコンウツギ	134
ウシコロシ	71
ウシブドウ	59
ウスバシラクチズル	105
ウスノキ	124
ウダイカンバ	44
ウチワカツラ	57
ウツギ	60
ウノハナ	61
ウバヒガン	65
ウマブドウ	103
ウメモドキ	90
ウラスギ	28
ウラシマツツジ	124
ウラジロイタヤ	96
ウラジロイチゴ	75
ウラジログアシ	50
ウラジロカンバ	45
ウラジロナナカマド	72
ウラジロノキ	72
ウラジロハコヤナギ	41
ウラジロヤナギ	39

ウラジロヨウラク	122
ウラナミウグイスカグラ	137
ウリカエデ	94
ウリノキ	108
うりのき科	108
ウリハダカエデ	94
ウルシ	86
うるし科	86
ウルシノキ	87
ウワミズザクラ	68

エ

エゴノキ	126
えごのき科	126
エゾアリドウシ	141
エゾアジサイ	62
エゾイソツツジ	121
エゾイタヤ	96
エゾイヌガヤ	23
エゾエノキ	52
エゾオニシバリ	107
エゾコブシ	59
エゾシモツケ	78

エゾシロヤナギ	39
エゾスグリ	62
エゾツツジ	116
エゾツリバナ	93
エゾナニワズ	107
エゾニワトコ	138
エゾノウワミズザクラ	68
エゾノカワヤナギ	38
エゾノキヌヤナギ	38
エゾノクマイチゴ	75
エゾノコリンゴ	70
エゾノシロバナシモツケ	78
エゾノダケカンバ	42
エゾノツガザクラ	120
エゾヒョウタンボク	136
エゾマツ	26
エゾマユミ	93
エゾヤマザクラ	67
エゾヤマハギ	33
エゾヤマモモ	41
エゾユズリハ	84
エドヒガン	64
エトロフザクラ	67
エニシダ	80

エノキ	52
エノコロヤナギ	39
エビカズラ	103
エビガライチゴ	74
エビツル	102
エンコウカエデ	98
エンジュ	82

オ

オオシュウトウヒ	25
オオアメリカキササゲ	133
オオイタヤメイゲツ	98
オオエゾイタヤ	97
オオウラジロノキ	70
オオエンジュ	81
オオガシ	49
オオカメノキ	140
オオクロウメモドキ	103
オオコメツツジ	116
オオザリコミ	65
オオシラビソ	24
オオシロヤナギ	37
オオズミ	71

オオソネ	47
オオタカネイバラ	72
オオタカネバラ	73
オオツルウメモドキ	90
オオツルツゲ	88
オオツリバナ	92
オオトネリコ	129
オオトリトマラス	57
オオナラ	51
オオバアサガラ	126
オオバイボタ	128
オオバウメモドキ	91
オオバガシ	49
オオバクロモジ	60
オオバグミ	109
オオバコリヤナギ	39
オオバザサ	36
オオハシバミ	49
オオバシナノキ	105
オオバスグリ	63
オオバスノキ	124
オオバチシャ	127
オオバツツジ	114
オオバツノハシバミ	49

オオバヒョウタンボク	137
オオバブシダマ	137
オオバニガイチゴ	75
オオバボダイジュ	104
オオバマユミ	92
オオバヤシャブシ	46
オオバヤナギ	40
オオバミネバリ	42
オオヘビノボラス	57
オオマメザクラ	67
オオミナナカマド	73
オオミネバリ	42
オオモミジ	98
オオヤマザクラ	66
オカヅラ	55
オガラバナ	96
オクエノキ	53
オクエゾノダケカンバ	43
オクチョウジザクラ	68
オクツバキ	105
オクノフウリンモドキ	90
オクヤマザクラ	67
オクヤマザサ	34
オグルミ	43

オトコヨウゾメ	138
オニイタヤ	96
オニウコギ	108
オニグルミ	42
オニシバリ	106
オニツツジ	115
オニツルウメモドキ	90
オニモミジ	95
オノエヤナギ	38
オノオレカンバ	42
オバルハンノキ	45
オヒョウ	52
オマツ	27
オモカゲグサ	77
オンコ	23

カ

かえで科	94
カガミグサ	77
かきのき科	124
カクミノスノキ	125
カジイチゴ	72
カシオシミ	119

カジカエデ	94
カシグルミ	42
カシワ	50
カシワナラ	51
カスミザクラ	66
カゾ	55
カツラ	54
かつら科	54
かばのき科	42
ガマズミ	138
カムシバ	59
カヤ	22
カラコギカエデ	94
カラスシキミ	106
カラスザンショウ	82
カラフトシャクナゲ	116
カラフトツツジ	117
カラフトヤナギ	39
カラマツ	24
カワグルミ	43
カワヤナギ	38
カワラウツギ	87
カワラフジノキ	81
ガンコウラン	86

がんこうらん科	86
ガントチイバラ	37
カントウマユミ	92
カンボク	140
キ	
キアカソ	55
キイチゴ	77
キササゲ	132
キシモツケ	79
キバナウツギ	134
キタカミヒョウタンボク	138
キタコブシ	58
キタゴヨウ	26
キツネヤナギ	36
キツタ	110
キハギ	80
キハダ	84
キバナシャクナゲ	112
キブシ	106
きぶし科	106
キャラボク	22
きょうちくとう科	130

キリ	132
ギョウジャカズラ	91
ギョウジャノミズ	103
キンギンカ	135
キンギンボク	136
ギンドロ	40
ギンナン	23
ギンヤナギ	39
キンロウバイ	77
キンロバイ	76
ク	
クコ	132
クサイチゴ	74
クサギ	130
クサギリ	131
クサボケ	70
くすのき科	58
クテガワザサ	34
クヌギ	50
クマイザサ	32
クマイチゴ	74
クマコケモモ	125

クマザサ	32
くまつづら科	130
クマシデ	46
クマノミズキ	110
クマヤナギ	102
ぐみ科	106
くわ科	54
クリ	48
クルマミズキ	111
くるみ科	42
クロイチゴ	76
クロウスゴ	124
クロウメモドキ	100
くろうめもどき科	100
クロエゾマツ	27
クロガシ	51
クロカンバ	100
クロチク	33
クロツガ	27
クロツバラ	102
クロツリバナ	90
クロツル	90
クロビイタヤ	94
クロバナエンジュ	81

クロブナ	49
クロベ	30
クロマツ	26
クロマメノキ	124
クロミノウグイスカグラ	134
クロモジ	58
クワ	55
ケ	
ケアサガラ	127
ケイタヤ	97
ケナシカンボク	141
ケナシシモツケ	79
ケナシヤブデマリ	140
ケミネヤナギ	38
ケミヤマヤナギ	38
ケヤキ	52
ケヤマウコギ	109
ケヤマハンノキ	44
ケンボナシ	102
ゲンペイウツギ	133

コ

コアカソ	54
コウカ	81
コウグイスカグラ	137
コウノ	55
コウモリカエデ	95
コウヤマキ	28
ゴガツイチゴ	75
コガネアオダモ	129
コクサギ	82
コケノミ	87
コケモモ	124
コゴメウツギ	76
コゴメバナ	79
コシアブラ	108
コシキブ	131
コソネ	139
コツクパネ	135
ゴトウヅル	61
コトリトマラズ	57
コデマリ	78
コナラ	50

コノテガシワ	30
コハイタヤ	97
コハウチワカエデ	98
コハゼ	125
コバノヤマハンノキ	45
コバノトネリコ	129
コバノフユイチゴ	74
コバナカエデ	97
コバハン	45
コブシ	56
コマガタケスグリ	62
ごまのはぐき科	132
コマユミ	92
コミネカエデ	96
コムラサキ	130
コメツガ	26
コメツツジ	114
コメバツガザクラ	120
ゴヨウアケビ	56
ゴヨウイチゴ	76
ゴヨウザンヨウラク	122
ゴヨウツツジ	114
ゴヨウマツ	27
コヨウラクツツジ	122

コリンゴ	69
コンゴウザクラ	69
ゴンゼツ	109

サ

サイカチ	80
サイカチイバラ	37
サイハダカンバ	45
ザイフリボク	68
ササトネリコ	127
サツキイチゴ	75
サツマウツギ	61
サトザクラ	66
サナギイチゴ	74
サナシ	71
サビタ	63
サビバナナカマド	70
サワアジサイ	63
サワグルミ	42
サワシデ	47
サワシバ	46
サワダツ	92
サワフタギ	126

サワラ	30
サラサドウダン	122
ザリグミ	63
ザリコミ	62
サルイワツバキ	105
サルクラハンノキ	46
サルトリイバラ	36
サルナシ	104
サンカクズル	102
サンショウ	82

シ

シウリザクラ	68
シキミ	58
しきみ科	58
ジゴクバラ	111
しそ科	132
シタキツルウメモドキ	91
シダレヤナギ	40
シデザクラ	69
シドミ	71
ジナシ	71
シナノキ	104

しなのき科	104
シノ	33
シバグリ	49
ジムカデ	120
シモツケ	78
シャクナゲ	113
ジャヤナギ	36
シャラノキ	107
シライヤナギ	38
シラカバ	43
シラカンバ	42
シラカシ	50
シラキ	84
シラクチツル	105
シラタマノキ	116
シラビソ	25
シラベ	24
シロザクラ	67・69
シロシデ	47
シロタブ	61
シロダモ	60
シロバナコメツツジ	115・117
シロヤナギ	38
シロバナタニウツギ	133

シロブナ	49
シロモノ	117
シロヤシオ	115
シンコマツ	25
シンジュ	85
じんちょうげ科	106
シンパク	33

ス

スイカズラ	134
すいかずら科	132
スエコザサ	34
スギ	28
すぎ科	28
スズカケノキ	64
すずかけのき科	64
スズ	35
スズタケ	34
スダジイ	48
ズミ	68
ズミノキ	71
スモモ	68

セ

セキダカツラ	131
セッコツボク	139
センダイヤマハギ	81
セندانバナボダイジュ	101
センノキ	111

ソ

ソガイコマユミ	95
ソナレ	33
ソメイヨシノ	66
ソヨゴ	88
ソロ	47

タ

タイワンギリ	132
タカオカエデ	99
タカネザクラ	67
タカネバナナカマド	72
タカノツメ	108

ダケカンバ	42
ダケグミ	125
たけ科	32
タチイチゴ	75
タチヤナギ	36
タニウツギ	132
タニガワハンノキ	44
タニグワ	55
タブノキ	60
タマアジサイ	62
タムシバ	58
タモガラ	61
タモノキ	127
タラノキ	108

チ

チシマザクラ	66
チシマザサ	34
チシマツガザクラ	120
チシャノキ	127
チチブヒョウタンボク	136
チチブミネバリ	44
チチブヤナギ	39

チドリノキ	94
チマキザサ	34
チャボアオキ	113
チャボガヤ	22
チョウジザクラ	66
チョウジャノキ	101
チョウセンゴミシ	58
チョウセンゴヨウ	26
チョウセンマツ	27
チングルマ	76

ツ

ツガザクラ	120
ツキ	53
ツクシグミ	107
ツクシハギ	82
ツクパネ	54
ツクパネウツギ	134
ツゲ	86
つげ科	86
ツタ	104
ツタウルシ	86
ツタモミジ	97

つつじ科	112
ツノハシバミ	48
ツバキ	105
つばき科	104
ツリバナ	92
ツリバナマユミ	93
ツルアジサイ	60
ツルウメモドキ	90
ツルコケモモ	122
ツルシキミ	84
ツルツゲ	88
ツルデマリ	61
ツルマサキ	92
ツルマユミ	91

テ

テイカカズラ	130
テウチグルミ	43
テツカエデ	96
テツノキ	97
デロ	41
デワノトネリコ	126

ト

ドイツトウヒ	24
トウグミ	106
トウゴクミツバツツジ	114
トウセンダン	107
とうだいぐさ科	84
ドウダンツツジ	118
トウヒ	26
トガスグリ	64
トキワアケビ	57
トキワカエデ	97
ドクウツギ	86
どくうつぎ科	86
トゲゴヨウイチゴ	77
トサトネリコ	129
トスベリ	129
トチノキ	100
とちのき科	100
トドマツ	25
トネリコ	126
トビラノキ	65
トベラ	64

とべら科	64
トヨオカザサ	34
トラノオモミ	27
ドロノキ	40
ドロヤナギ	41
トワダカツラ	57
トリモチノキ	59

ナ

ナガバカワヤナギ	39
ナガハシバミ	49
ナガバツガザクラ	120
ナガバヤナギ	39
ナガミノゴヨウ	27
なす科	132
ナツグミ	106
ナツツバキ	106
ナツハゼ	124
ナツボウズ	107
ナナカマド	70
ナニワズ	106
ナベワリ	87
ナラガシワ	50

ナワシロイチゴ	74
ナワシログミ	108
ナワベリ	87
ナンゴクミネカエデ	96
ナンブクロカンバ	100
ナンブヒョウタンボク	136

ニ

ニオイコブシ	59
ニオイヒバ	30
ニガイチゴ	74
ニガキ	84
にがき科	84
ニシキウツギ	134
ニシキギ	92
にしきぎ科	90
ニセアカシヤ	83
ニッコウシラハギ	83
ニッコウシャクナゲ	117
ニッコウヒョウタンボク	136
ニレ	53
にれ科	52
ニワウルシ	84

ニワトコ	138
ニワフジ	80
ニンドウ	135

ヌ

ヌルデ	86
ヌマスギ	28

ネ

ネコシデ	44
ネコヤナギ	38
ネジキ	118
ネジリジナ	53
ネズ	30
ネズコ	31
ネズミサシ	31
ネマガリダケ	35
ネムノキ	80

ノ

ノイバラ	72
------	----

ノウゼンカズラ	132
のうぜんかずら科	132
ノダフジ	81
ノハギ	81
ノブドウ	102
ノリウツギ	62
ノリノキ	63

ハ

ハイイヌガヤ	22
ハイイヌツゲ	88
バイカウツギ	60
バイカツツジ	114
はいのき科	124
ハイネズ	30
ハイマツ	26
ハイミヤマシキミ	85
ハウチワカエデ	98
ハカリノメ	73
ハギ	83
ハクウンボク	126
ハクサンシャクナゲ	112
ハクサンヒョウタンボク	137

ハゲシバリ	47
ハコツツジ	119
ハコネウツギ	132
ハゴノキ	55
ハコヤナギ	41
ハジカミ	83
ハシドイ	130
ハシバミ	48
バッコヤナギ	37
ハナイカダ	110
ハナキササゲ	132
ハナシバ	59
ハナノキ	59
ハナヒョウタンボク	138
ハナヒリノキ	122
ハマゴウ	130
ハマザクラ	121
ハマナシ	73
ハマナス	72
ハマハイ	131
ハマハイビャクシン	32
ハマボウ	131
ハマモッコク	67
ハヤチネイワシモツケ	78

ばら科	64
ハリエンジュ	82
ハリガネカズラ	118
ハリギリ	110
ハリノキ	45
ハリブキ	110
ハルニレ	52
ハンノキ	44

ヒ

ヒガンザクラ	65
ヒサカキ	104
ヒトツバカエデ	94
ヒナユズリハ	85
ヒノキ	28
ヒノキアスナロ	30
ひのき科	28
ヒバ	31
ヒマラヤシーダー	25
ヒマラヤスギ	24
ヒメアオキ	112
ヒメウスノキ	122
ヒメコウゾ	54

ヒメコマツ	26
ヒメシャクナゲ	116
ヒメツガザクラ	121
ヒメヒョウタンボク	137
ヒメモチ	88
ヒメヤシャブシ	46
びゃくだん科	54
ビャクシン	32
ヒロハイチイ	23
ヒロハオオズミ	71
ヒロハカツラ	56
ヒロハゴマギ	141
ヒロハツリバナ	90
ヒロハヘビノボラズ	56
ヒロハマユミ	93
ヒロハモミジ	99
ヒロハヤブデマリ	141

フ

フウリンツツジ	123
フキズメソウ	113
フクラシバ	89
フゲシザサ	34

フサザクラ	54
ふさざくら科	54
フジ	80
フジウツギ	130
ふじうつぎ科	130
フシノキ	87
フジキ	80
フジマツ	25
ぶどう科	102
ブナ	48
ぶな科	48
フユツタ	111

ヘ

ヘボガヤ	23
ヘダマ	23
ベニイタヤ	98
ベニウツギ	133
ベニバナイチゴ	74
ベニヤマザクラ	67

ホウソ	51
ホウキヤシオ	123
ホオノキ	58
ホザキカエデ	97
ホザキシモツケ	78
ホザキナナカマド	76
ホザキヤドリギ	54
ホツツジ	118
ホナガクマヤナギ	102
ホロムイツツジ	117
ホンツゲ	87
ホンマキ	29

マカバ	45
マサキ	90
マサキカズラ	93
マダケ	32
マタタビ	104
またたび科	104

まめ科	80
まつ科	24
マツノキハダ	119
マツハダ	115
マツブサ	58
まつぶさ科	58
マユミ	92
ママッコ	111
マルバアオダモ	128
マルバイワシモツケ	78
マルバウスゴ	124
マルバウメモドキ	89
マルバカエデ	95
マルバグミ	108
マルバゴマギ	140
マルバサンキライ	36
マルバシャリンバイ	68
マルバシモツケ	78
マルバハンノキ	45
マルバフユイチゴ	74
マルバハギ	82
マルバマンサク	64
マルバヤナギ	37
マルバヨノミ	136

マルミゴヨウ	27
マメガキ	124
マンサク	64
まんさく科	64

みかん科	82
ミズキ	110
みずき科	110
ミスズ	35
ミズナラ	50
ミズメ	42
ミツデカエデ	100
ミチノクナシ	71
ミツバアケビ	56
ミツバウツギ	94
みつばうつぎ科	94
ミツバカイドウ	69
ミツバカエデ	101
ミネカエデ	94
ミネザクラ	66
ミネズオウ	118
ミネバリ	43

ミネヤナギ	39
ミヤコザサ	34
ミヤギノハギ	82
ミヤマアオダモ	126
ミヤマイヌザクラ	69
ミヤマイボタ	128
ミヤマウグイスカグラ	136
ミヤマウラジロイチゴ	74
ミヤマガマズミ	138
ミヤマカワラハンノキ	44
ミヤマクロソヨゴ	89
ミヤマザクラ	66
ミヤマザサ	32
ミヤマシキミ	84
ミヤマツツジ	115
ミヤマホツツジ	118
ミヤマナナカマド	72
ミヤマナラ	52
ミヤマニガイチゴ	74
ミヤマネズ	30
ミヤマハイビャクシン	33
ミヤマハギ	83
ミヤマハハソ	100
ミヤマハンノキ	46

ミヤマビャクシン	32
ミヤママタタビ	104
ミヤマヤナギ	38

むくろじ科	100
ムシカリ	141
ムツアジサイ	63
ムベ	56
ムラサキシキブ	130
ムラサキツリバナ	91
ムラサキヤシオツツジ	114
ムロ	31

メイゲツカエデ	99
メウリノキ	95
メオトバナ	141
メギ	56
めぎ科	56
メグスリノキ	100
メジロザクラ	67

メタセコイヤ	28
メマツ	29

モウソウチク	32
モエブトル	127
モクゲンジ	100
もくせい科	126
もくれん科	56
モチガシワ	51
モチノキ	88
もちのき科	88
モミ	24
モミジイチゴ	76
モミジバスズカケノキ	64

ヤジナ	53
ヤシャブシ	46
ヤシャビシャク	64
ヤダケ	32
ヤチイタヤ	95

ヤチイヌツゲ	89
ヤチダモ	128
ヤチツツジ	116
ヤチヤナギ	40
ヤツデ	108
ヤドリギ	54
やどりぎ科	54
やなぎ科	36
ヤハズハンノキ	44
ヤヒコザサ	36
ヤブコウジ	124
やぶこうじ科	124
ヤブサンザシ	62
ヤブツバキ	104
ヤブデマリ	138
ヤブヒョウタンボク	138
ヤブムラサキ	130
ヤマアジサイ	62
ヤマウコギ	108
ヤマウルシ	86
ヤマエンジュ	81
ヤマカシュウ	36
ヤマグワ	54
ヤマグルマ	58

やまぐるま科	58
ヤマコウバシ	60
ヤマシキミ	107
ヤマシバカエデ	95
ヤマスグリ	63
ヤマタチバナ	125
ヤマツツジ	112
ヤマツバキ	105
ヤマデマリ	139
ヤマトアオダモ	128
ヤマナシ	70
ヤマナラシ	40
ヤマネコヤナギ	36
ヤマハギ	82
ヤマハンノキ	44
ヤマブキ	76
ヤマブドウ	102
ヤマボウシ	110
ヤマモミジ	98
やまもも科	40

ユ

ユキグニミツバツツジ	114
------------	-----

ユキツバキ	104
ユキヤナギ	78
ゆきのした科	60
ユズリハ	84
ゆずりは科	84
ユモトマユミ	93
ゆり科	36

ヨ

ヨコグラノキ	102
ヨグソミネバリ	43
ヨツズミ	139
ヨロイドウシ	57

ラ

ラクウショウ	29
ラクヨウショウ	25

リ

リシリビャクシン	30
リョウブ	112

りょうぶ科	112
リンネソウ	140

ル

ルリミノウシコロシ	127
-----------	-----

レ

レンゲツツジ	114
--------	-----

ワ

ワタゲカマツカ	70
---------	----

参考文献 (著者名 図書名 発行所の順に記載した。——は不明または該当なし。)

- 共 通 大井次三郎外 日本植物誌
 宮脇 昭外 日本植生便覧 (改訂新版) 至文堂
 草下正夫外 実用樹木要覧 ——
 —— 日本の樹木 山と溪谷社
 —— 日本の高山植物 山と溪谷社
 —— 日本の花 山と溪谷社
 —— 森林家必携 林野弘済会
 牧野富太郎 牧野新日本植物図鑑 北隆館
 武田久吉外 日本高山植物図鑑 北隆館
 森 邦彦 北日本産樹木図集 エビス屋書店
 —— 日本の野生植物 木本 I, II 平凡社
 馬場多久男 冬の落葉樹図鑑 信濃毎日新聞社
 —— 春の山野草と樹木512種 講談社
 —— 夏の山野草と樹木550種 講談社
 —— 秋の山野草と樹木505種 講談社
 倉田 悟 原色日本林業樹木図鑑 第1巻～第5巻 地球出版
 宮部金吾外 北海道主要樹木図譜 北海道大学図書刊行会
 佐藤秀夫 北海道樹木図譜 亜璃亜
 —— 三陸植物誌 青森営林局
 —— 青森営林局管内 植物方言集 青森営林局
 村井三郎 十和田湖・八甲田山の植物 青森営林局
 —— 日本の重要な植物群落 東北版 環境庁

—— 国立・国定公園内指定植物図鑑 環境庁

- 堀田 満 野山の木 I, II 保育社
 上原敬二 樹木ガイドブック 加島書店
 倉田 悟 主要樹木方言集 地球出版
 林 弥栄 日本針葉樹の分類と分布 農林出版
 鈴木貞雄 日本タケ科植物総目録 学習研究社

青森県関係

- 赤石川流域の自然 青森県立郷土館
 —— 津軽半島・下北半島の自然 青森県立郷土館
 —— 下北半島学術調査報告 日本自然保護協会
 —— 津軽半島・岩木山自然公園学術調査報告 日本自然保護協会
 —— 青森県生物学会誌 青森県生物学会
 —— 津軽地方学術調査報告 津軽国定公園指定促進協議会
 —— 青森県博物総目録 青森県博物館
 —— 青森県植物分布図 第1～第5集 青森県生物学会植物分布調査委員会
 細井幸兵衛 青森県野生植物目録 ——
 根市益三 三八地方の植物 青森県生物学会八戸支部
 —— 階上岳学術調査報告 青森県水産商工部観光鉱政課
 —— 西津軽の植物 西津軽郡教職員組合
 —— 屏風山植物誌 車力村教育委員会
 —— 赤石川流域, 暗門の滝周辺, 青森県立自然公園予定地学術調査報告書 青森県環境保健部
 森 治 下北半島植物目録 (1), (2) ——
 水島正美 田名部周辺泥炭地の高等植物相 資源科学研究所
 —— 八甲田山の維管植物目録 東北大学付属八甲田山高山植物研究所

村井三郎 細井幸兵衛 井沼正之 青森県弘西地区植物目録予報(青森林友) 青森営林局
 青森県立自然公園植生調査結果報告書(浅虫, 夏泊, 名久井岳) 青森県環境保健部
 白神山地自然環境調査報告(赤石川流域) 青森県
 青森県自然環境保全基礎調査報告 青森県
 自然環境保全地域指定候補地概況調査報告書 青森県
 西川恒彦 三本木原台地の植物目録

岩手県関係 小岩勲夫 栗駒山の自然 川島印刷
 土井信夫 早池峰山連嶺の花 文化出版局
 薬師岳地域の植生と昆虫相 岩手県教育委員会
 岩手県植物誌 岩手植物の会
 早池峰自然環境保全地域調査報告 環境庁自然保護局
 陸中早池峯連峯の植物 岩手県遠野市教育委員会
 盛岡市域の自然環境調査報告書総集編 盛岡市, 盛岡市自然環境総合調査団
 大森鉄雄 花巻市出羽沢上流植生調査報告書
 笹村祥二 岩手県沿岸帯植物目録 盛岡生物学会
 岩手県九戸郡動植物目録 久慈高校実業部生物研究班
 村井三郎 岩手県基準帯植物目録 青森営林局

宮城県関係 村井三郎 宮城県植物目録 青森営林局
 ふるさとの自然 宮城県
 峠田岳植生と調査報告書 宮城県
 宿山, 斉勝沼緑地環境保全地域学術調査報告書 宮城県
 権現森緑地環境保全地域学術調査報告書 宮城県

県立自然公園船形連峰学術調査報告書 宮城県
 世界谷地湿原学術調査報告書 宮城県
 県立自然公園 松島 学術調査報告書 宮城県
 県立自然公園 船形連峰 学術調査報告書 宮城県
 県立自然公園 二口峡谷 学術調査報告書 宮城県
 県立自然公園 気仙沼 学術調査報告書 宮城県
 蔵王国定公園, 県立自然公園蔵王連峰学術調査報告書 宮城県
 栗駒国定公園及び県立自然公園旭山学術調査報告書 宮城県
 仙台湾海浜県自然環境保全地域学術調査報告書 宮城県
 太白山県自然環境保全地域学術調査報告書 宮城県
 青葉山保存緑地調査報告書 臨時専門委員会
 栗駒自然公園学術調査報告 日本自然保護協会
 南三陸海岸自然公園学術調査報告 日本自然保護協会

秋田県関係 藤原陸夫 秋田県植物目録 第7版
 藤原陸夫 秋田県男鹿半島の植物
 米田 博 秋田県鹿角地方植物誌 鹿角植物の会
 雄勝野草の会 秋田県雄勝地方植物誌
 粕毛川源流部自然環境調査報告書 秋田県
 和賀山塊調査中間報告 秋田県和賀山塊を愛する会
 村井三郎 仁別国民の森の植物
 古家儀八郎 秋田県産植物断報 林曹会報
 管内植物目録 秋田営林局
 秋田湾地区自然観環境調査報告 秋田県

工藤茂美 秋田県山本地方植物誌 —————
 畠山益穂 鷹巣地方植物誌 —————
 松田義徳 秋田県平鹿地方植物誌 —————
 ————— 収蔵資料目録自然Ⅱ～Ⅳ 秋田県立博物館

山形県関係 結城嘉美 山形県の植物誌 —————
 ————— 烏海山・飛鳥 山形県総合学術調査会
 ————— 摩耶山 山形県総合学術調査会
 ————— 出羽三山 山形県総合学術調査会
 ————— 神室山・加無山 山形県総合学術調査会
 ————— 御所山 山形県総合学術調査会
 ————— 蔵王連峰 山形県総合学術調査会
 ————— 飯豊連峰 山形県総合学術調査会
 ————— 新版「山形県の植物誌」 山形県総合学術調査会
 ————— 最上川 山形県総合学術調査会
 ————— 山形県博物館収蔵資料目録植物資料目録2

編集委員

青森営林局 橋岡 伸守 森林管理部長
 今井 啓二 指導普及課長
 田之畑忠年 治山課長
 小野 博 青森営林署長
 工藤 悦郎 元技術開発主任官
 千葉多兵衛 技術開発主任官
 秋田営林局 相模 正芳 森林管理部長
 笹沼 修 計画課長
 鈴木 保男 指導普及課長
 小原 喜幸 治山課長
 千葉 謙 森林施業調整官

執筆者

元青森営林局 工藤 悦郎
 青森営林局 千葉多兵衛
 秋田営林局 千葉 謙

東北の樹木誌

1997年3月25日発行

編集 青森営林局 秋田営林局

発行 社団法人 日本林業技術協会

〒102 東京都千代田区六番町7
 TEL 03-3261-5281(代)
 FAX 03-3261-3044

定価(本体2,000円+税)送料実費

1997.3 NPI200

「東北の樹木誌」正誤表

誤植がありましたので下記により訂正いたします。

ページ	樹 種 名	欄	誤	正
26	エゾマツ	学名	<i>Picea Jezoensis</i>	<i>Picea jezoensis</i>
27	クロマツ	記事	<u>植栽</u>	<u>植栽</u>
28	コウヤマキ	学名	<i>Sibe.</i> et Zucc.	<i>Sieb.</i> et Zucc.
32	マダケ	学名	<i>Silb.</i> et Zucc.	<i>Sieb.</i> et Zucc.
32	ヤダケ	学名	<i>Japonica</i>	<i>japonica</i>
44	ヤマハンノキ	学名	<i>Turcz. Var.</i>	<i>Turcz. var.</i>
56	ミツバアケビ	学名	(Thunb.) <i>koidz.</i>	(Thunb.) <i>Koidz.</i>
78	エゾノシロバナシモツケ	学名	<i>koidz.</i>	<i>Koidz.</i>
90	クロツリバナ	学名	<i>koidz.</i>	<i>Koidz.</i>
92	ニシキギ	学名	<i>alstus</i>	<i>alatus</i>
92	コマユミ	学名	<i>alstus</i> Sieb. form. <i>ciliato-detatus</i>	<i>alatus</i> Sieb. form. <i>ciliato-dentatus</i>
97	イタヤカエデ	記事	ベニイタヤ	ベニイタヤ